



茨城県

# 茨城県景気ウォッチャー調査

(令和元年6月調査分)

## 《景気の現状判断DI》

	平成31年3月	令和元年6月	前回調査比
茨城県	47.1	<b>43.8</b>	△3.3
県北地域	40.9	<b>43.4</b>	+2.5
県央地域	52.6	<b>43.2</b>	△9.4
鹿行地域	46.5	<b>43.8</b>	△2.7
県南地域	50.9	<b>48.7</b>	△2.2
県西地域	44.6	<b>39.8</b>	△4.8

## 《景気の先行き判断DI》

	平成31年3月	令和元年6月	前回調査比
茨城県	48.0	<b>47.1</b>	△0.9
県北地域	43.5	<b>47.4</b>	+3.9
県央地域	54.3	<b>49.6</b>	△4.7
鹿行地域	49.1	<b>46.0</b>	△3.1
県南地域	50.0	<b>50.0</b>	0.0
県西地域	42.9	<b>42.1</b>	△0.8

令和元年7月

茨城県政策企画部統計課

## 目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	3
1	全県の動向	3
	(1) 景気の現状判断D I	3
	(2) 景気の先行き判断D I	4
2	地域別の動向	5
	(1) 景気の現状判断D I	5
	(2) 景気の先行き判断D I	8
III	景気の判断コメント	11
1	景気の現状判断コメント	11
2	景気の先行き判断コメント	21
3	その他の意見	31

問い合わせ先

茨城県統計課企画分析グループ TEL:029-301-2632

ホームページアドレス

[http://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukk  
a/watch/index.html](http://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukk<br/>a/watch/index.html)

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

県内の事業所等において経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気動向判断等の基礎資料とする。

## 2 調査の範囲

### (1)対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市町村は以下のとおりである。

地域	市 町 村
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、東海村、太子町
県央地域	水戸市、笠間市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

### (2)調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

#### 【地域別・業種別調査客数】

業 種 名	具 体 例	県北 地域	県央 地域	鹿行 地域	県南 地域	県西 地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等	37	39	36	36	36	184
企業関連	製造業（食料品、一般機械器具等）、建設業、金融業等	19	16	19	19	19	92
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等	4	5	5	5	5	24
	計	60	60	60	60	60	300

## 3 有効回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	284 人	94.7%
県北地域	60 人	57 人	95.0%
県央地域	60 人	59 人	98.3%
鹿行地域	60 人	56 人	93.3%
県南地域	60 人	58 人	96.7%
県西地域	60 人	54 人	90.0%

## 4 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断 (方向性)
- (2) (1) のコメント (理由)
- (3) 景気の先行きに対する判断 (方向性)
- (4) (3) のコメント (理由)
- (5) その他景気に関する意見 (自由回答)

## 5 調査月及び調査期間

調査月は6月、9月、12月及び3月の年4回である。令和元年6月調査の調査期間は、令和元年6月5日から令和元年6月30日である。

## 6 利用上の注意

- (1) DI (Diffusion Index) は景気の方角性 (景気が上向きか下向きか) をみるものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

### ※DI(Diffusion Index)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて、景気の方角性をみるための指標 (DI) を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

- 2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1点 \times 15.0\%) + (0.75点 \times 27.0\%) + (0.5点 \times 25.0\%) + (0.25点 \times 11.0\%) + (0点 \times 22.0\%) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5点 \times 100\%) = 50$  となることから、50を上回っているときは、景気は上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気は下降局面にあるといえる。

## II 調査結果の概要

### 1 全県の動向

#### (1) 景気の現状判断DI

景気の現状判断DIは43.8となった。平成31年3月調査（以下、「前回調査」という。）より3.3ポイント低下し、横ばいを表す50を3期連続で下回った。

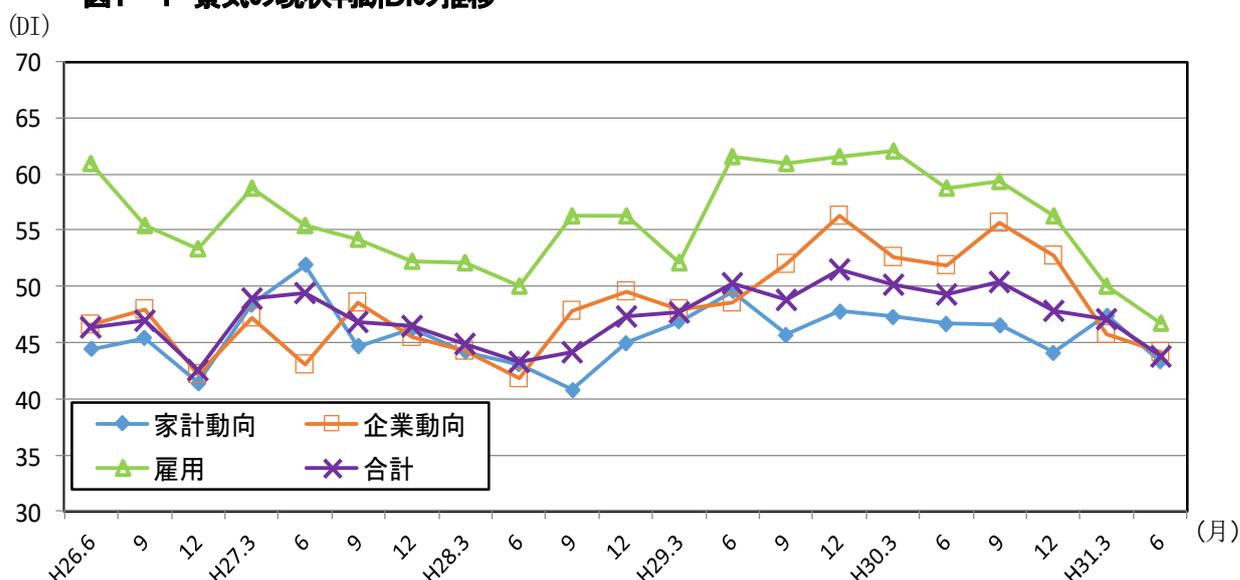
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査年月	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年
		6月	9月	12月	3月	6月
<b>合計</b>		<b>49.3</b>	<b>50.4</b>	<b>47.8</b>	<b>47.1</b>	<b>43.8</b>
<b>家計動向関連</b>		<b>46.7</b>	<b>46.6</b>	<b>44.1</b>	<b>47.4</b>	<b>43.3</b>
小売関連		44.9	44.8	42.0	44.3	41.5
飲食関連		45.7	42.4	42.4	47.8	44.8
サービス関連		47.8	47.7	46.1	50.0	44.7
住宅関連		52.8	62.5	47.2	46.9	40.6
<b>企業動向関連</b>		<b>51.9</b>	<b>55.6</b>	<b>52.8</b>	<b>45.8</b>	<b>44.1</b>
農林水産業		59.4	56.3	50.0	40.6	34.4
製造業		52.6	57.3	51.6	43.1	44.7
非製造業		49.3	53.0	55.1	50.7	45.6
<b>雇用関連</b>		<b>58.7</b>	<b>59.4</b>	<b>56.3</b>	<b>50.0</b>	<b>46.7</b>

表1-2 回答構成比

	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年
	6月	9月	12月	3月	6月
良くなっている	2.8%	3.5%	2.8%	1.4%	1.8%
やや良くなっている	18.1%	19.1%	17.0%	17.4%	10.9%
変わらない	56.6%	57.6%	54.7%	54.7%	54.9%
やや悪くなっている	18.8%	15.3%	20.1%	21.3%	25.7%
悪くなっている	3.8%	4.5%	5.5%	5.2%	6.7%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



## (2)景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは47.1となった。前回調査より0.9ポイント低下し、横ばいを表す50を3期連続で下回った。

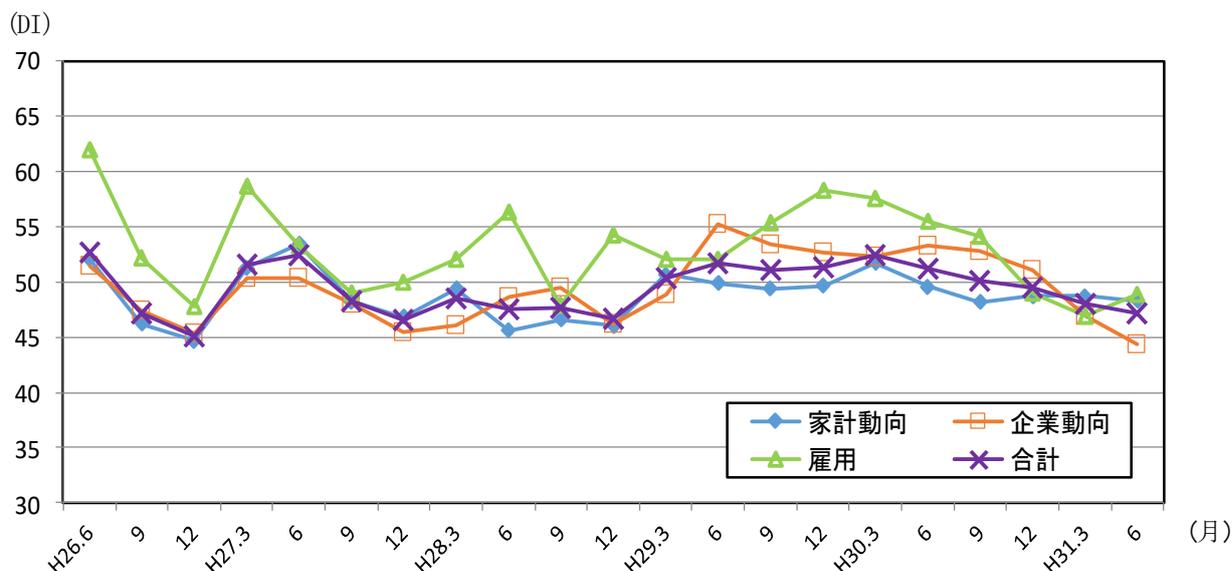
表1-3 景気の先行き判断DI

分野	調査年月				
	平成30年 6月	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月
<b>合計</b>	<b>51.2</b>	<b>50.1</b>	<b>49.5</b>	<b>48.0</b>	<b>47.1</b>
<b>家計動向関連</b>	<b>49.6</b>	<b>48.1</b>	<b>48.7</b>	<b>48.7</b>	<b>48.3</b>
小売関連	50.0	46.6	46.6	48.9	46.9
飲食関連	45.7	40.2	46.7	42.4	46.9
サービス関連	48.4	50.0	49.0	51.6	49.0
住宅関連	66.7	65.6	66.7	37.5	56.3
<b>企業動向関連</b>	<b>53.3</b>	<b>52.8</b>	<b>51.1</b>	<b>46.9</b>	<b>44.4</b>
農林水産業	56.3	43.8	50.0	53.1	50.0
製造業	53.6	52.1	50.0	44.7	43.1
非製造業	52.2	56.1	52.9	48.5	44.9
<b>雇用関連</b>	<b>55.4</b>	<b>54.2</b>	<b>49.0</b>	<b>46.9</b>	<b>48.9</b>

表1-4 回答構成比

	平成30年 6月	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月
良くなっている	1.0%	2.4%	3.1%	2.4%	2.1%
やや良くなっている	22.9%	18.1%	17.0%	18.1%	19.7%
変わらない	58.3%	60.1%	57.8%	52.3%	50.4%
やや悪くなっている	15.3%	16.3%	19.0%	23.3%	20.1%
悪くなっている	2.4%	3.1%	3.1%	3.8%	7.7%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移



## 2 地域別の動向

### (1)景気の現状判断DI

#### ① 県北地域

景気の現状判断DIは43.4となった。前回調査より2.5ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を3期連続で下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成30年 6月	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月
合計		51.3	50.0	48.7	40.9	43.4
	家計動向関連	43.9	46.4	41.2	40.7	44.1
	企業動向関連	61.8	55.3	60.5	39.5	40.8
	雇用関連	62.5	56.3	56.3	50.0	50.0

表2-2 回答構成比

	平成30年 6月	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月
良くなっている	3.6%	1.7%	5.3%	0.0%	5.3%
やや良くなっている	17.9%	22.4%	19.3%	10.3%	10.5%
変わらない	60.7%	53.4%	45.6%	53.4%	47.4%
やや悪くなっている	16.1%	19.0%	24.6%	25.9%	26.3%
悪くなっている	1.8%	3.4%	5.3%	10.3%	10.5%

#### ② 県央地域

景気の現状判断DIは43.2となった。前回調査より9.4ポイント低下し、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成30年 6月	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月
合計		49.2	53.0	47.5	52.6	43.2
	家計動向関連	48.0	49.3	44.2	52.0	44.7
	企業動向関連	46.9	59.4	51.7	51.7	35.9
	雇用関連	65.0	60.0	60.0	60.0	55.0

表2-4 回答構成比

	平成30年 6月	平成30年 9月	平成30年 12月	平成31年 3月	令和元年 6月
良くなっている	5.1%	10.3%	3.4%	3.4%	0.0%
やや良くなっている	16.9%	17.2%	16.9%	27.6%	13.6%
変わらない	50.8%	50.0%	47.5%	46.6%	47.5%
やや悪くなっている	23.7%	19.0%	30.5%	20.7%	37.3%
悪くなっている	3.4%	3.4%	1.7%	1.7%	1.7%

### ③ 鹿行地域

景気の現状判断DIは43.8となった。前回調査より2.7ポイント低下し、横ばいを表す50を4期連続で下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		51.3	47.8	49.1	46.5	43.8
家計動向関連		49.2	44.7	48.5	49.2	43.9
企業動向関連		54.2	50.0	50.0	43.4	43.1
雇用関連		55.0	60.0	50.0	40.0	45.0

表2-6 回答構成比

	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年
	6月	9月	12月	3月	6月
良くなっている	3.6%	0.0%	1.8%	0.0%	1.8%
やや良くなっている	17.9%	14.0%	17.5%	15.8%	7.1%
変わらない	60.7%	66.7%	61.4%	57.9%	58.9%
やや悪くなっている	16.1%	15.8%	14.0%	22.8%	28.6%
悪くなっている	1.8%	3.5%	5.3%	3.5%	3.6%

### ④ 県南地域

景気の現状判断DIは48.7となった。前回調査より2.2ポイント低下し、横ばいを表す50を4期ぶりに下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		47.9	53.9	50.0	50.9	48.7
家計動向関連		46.5	49.3	46.4	52.9	47.8
企業動向関連		50.0	59.7	55.6	51.4	51.3
雇用関連		50.0	65.0	55.0	35.0	45.0

表2-8 回答構成比

	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年
	6月	9月	12月	3月	6月
良くなっている	0.0%	1.7%	0.0%	3.4%	0.0%
やや良くなっている	20.0%	24.1%	15.5%	15.5%	15.5%
変わらない	56.7%	65.5%	70.7%	62.1%	65.5%
やや悪くなっている	18.3%	5.2%	12.1%	19.0%	17.2%
悪くなっている	5.0%	3.4%	1.7%	0.0%	1.7%

⑤ 県西地域

景気の現状判断DIは39.8となった。前回調査より4.8ポイント低下し、横ばいを表す50を21期連続で下回った。

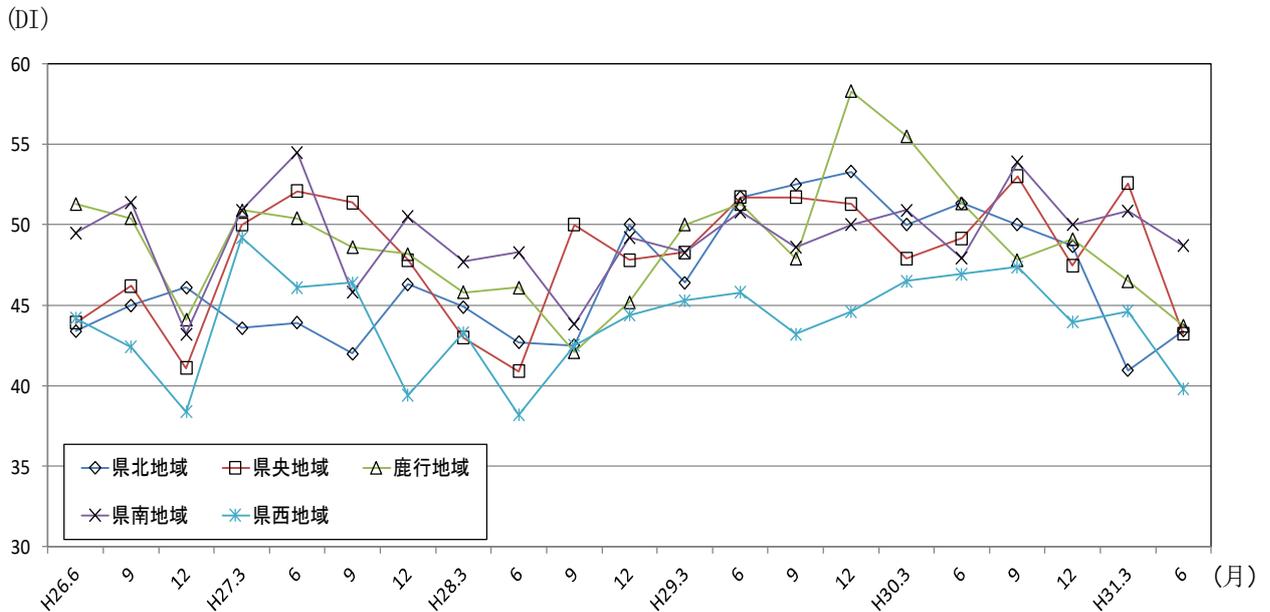
表2-9 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		46.9	47.4	44.0	44.6	39.8
家計動向関連		45.6	42.9	40.4	41.7	35.6
企業動向関連		46.1	54.4	46.1	44.4	48.5
雇用関連		62.5	55.0	60.0	65.0	37.5

表2-10 回答構成比

	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年
	6月	9月	12月	3月	6月
良くなっている	1.8%	3.5%	3.4%	0.0%	1.9%
やや良くなっている	17.5%	17.5%	15.5%	17.9%	7.4%
変わらない	54.4%	52.6%	48.3%	53.6%	55.6%
やや悪くなっている	19.3%	17.5%	19.0%	17.9%	18.5%
悪くなっている	7.0%	8.8%	13.8%	10.7%	16.7%

図2-1 地域別現状判断DIの推移



	26.6	26.9	26.12	27.3	27.6	27.9	27.12	28.3	28.6	28.9	28.12	29.3	29.6	29.9	29.12	30.3	30.6	30.9	30.12	31.3	R1.6月
県全体	46.4	47.0	42.6	48.9	49.4	46.8	46.5	44.9	43.3	44.2	47.3	47.7	50.3	48.8	51.5	50.1	49.3	50.4	47.8	47.1	43.8
県北	43.4	45.0	46.1	43.6	43.9	42.0	46.3	44.9	42.7	42.5	50.0	46.4	51.7	52.5	53.3	50.0	51.3	50.0	48.7	40.9	43.4
県中央	43.9	46.2	41.1	50.0	52.1	51.4	47.8	43.0	40.9	50.0	47.8	48.3	51.7	51.7	51.3	47.9	49.2	53.0	47.5	52.6	43.2
鹿行	51.3	50.4	44.1	50.9	50.4	48.6	48.2	45.8	46.1	42.1	45.2	50.0	51.3	47.9	58.3	55.5	51.3	47.8	49.1	46.5	43.8
県南	49.5	51.4	43.6	50.9	54.5	45.8	50.5	47.7	48.3	43.8	49.2	48.3	50.8	48.6	50.0	50.9	47.9	53.9	50.0	50.9	48.7
県西	44.2	42.4	38.4	49.2	46.1	46.4	39.4	43.3	38.2	42.5	44.4	45.3	45.8	43.2	44.6	46.5	46.9	47.4	44.0	44.6	39.8
全国	47.7	47.4	45.2	52.2	51.0	47.5	48.7	45.4	41.2	44.8	51.2	50.6	49.9	49.6	53.9	51.7	48.2	47.3	48.2	46.7	43.3(原数値)
	47.9	49.2	45.0	49.5	51.4	48.8	47.9	42.9	41.8	46.2	49.9	48.4	50.6	50.9	52.9	49.6	48.8	48.3	46.8	44.8	44.0(季節調整値)

## (2)景気の先行き判断DI

### ① 県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは47.4となった。前回調査より3.9ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回った。

表2-11 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		50.0	50.9	50.0	43.5	47.4
家計動向関連		47.0	50.7	45.6	41.4	50.0
企業動向関連		56.6	51.3	57.9	46.1	40.8
雇用関連		43.8	50.0	50.0	50.0	56.3

表2-12 回答構成比

	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年
	6月	9月	12月	3月	6月
良くなっている	0.0%	3.4%	5.3%	0.0%	3.5%
やや良くなっている	21.4%	17.2%	17.5%	13.8%	21.1%
変わらない	58.9%	60.3%	54.4%	53.4%	45.6%
やや悪くなっている	17.9%	17.2%	17.5%	25.9%	21.1%
悪くなっている	1.8%	1.7%	5.3%	6.9%	8.8%

### ② 県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは49.6となった。前回調査より4.7ポイント低下し、横ばいを表す50を10期ぶりに下回った。

表2-13 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		50.8	53.9	50.8	54.3	49.6
家計動向関連		49.3	50.7	53.2	58.6	51.3
企業動向関連		50.0	60.9	46.7	46.7	42.2
雇用関連		65.0	55.0	45.0	45.0	60.0

表2-14 回答構成比

	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年
	6月	9月	12月	3月	6月
良くなっている	3.4%	5.2%	5.1%	5.2%	3.4%
やや良くなっている	23.7%	24.1%	20.3%	32.8%	25.4%
変わらない	49.2%	53.4%	47.5%	37.9%	42.4%
やや悪くなっている	20.3%	15.5%	27.1%	22.4%	23.7%
悪くなっている	3.4%	1.7%	0.0%	1.7%	5.1%

### ③ 鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは46.0となった。前回調査より3.1ポイント低下し、横ばいを表す50を3期連続で下回った。

表2-15 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		51.3	50.4	48.7	49.1	46.0
	家計動向関連	50.8	49.2	47.0	50.0	47.7
	企業動向関連	52.8	52.6	52.6	50.0	41.7
	雇用関連	50.0	50.0	45.0	40.0	50.0

表2-16 回答構成比

	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年
	6月	9月	12月	3月	6月
良くなっている	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%
やや良くなっている	21.4%	15.8%	15.8%	17.5%	12.5%
変わらない	58.9%	66.7%	63.2%	57.9%	57.1%
やや悪くなっている	16.1%	14.0%	14.0%	21.1%	25.0%
悪くなっている	1.8%	1.8%	5.3%	1.8%	3.6%

### ④ 県南地域

3か月先の景気の先行き判断DIは50.0となった。前回調査より変わらず、横ばいを表す50となった。

表2-17 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		51.3	51.7	47.8	50.0	50.0
	家計動向関連	50.0	47.9	50.0	53.6	52.9
	企業動向関連	52.6	55.6	41.7	45.8	46.1
	雇用関連	55.0	65.0	55.0	40.0	45.0

表2-18 回答構成比

	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年
	6月	9月	12月	3月	6月
良くなっている	0.0%	0.0%	0.0%	5.2%	1.7%
やや良くなっている	18.3%	19.0%	17.2%	13.8%	22.4%
変わらない	70.0%	69.0%	60.3%	56.9%	56.9%
やや悪くなっている	10.0%	12.1%	19.0%	24.1%	12.1%
悪くなっている	1.7%	0.0%	3.4%	0.0%	6.9%

⑤ 県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは42.1となった。前回調査より0.8ポイント低下し、横ばいを表す50を2期連続で下回った。

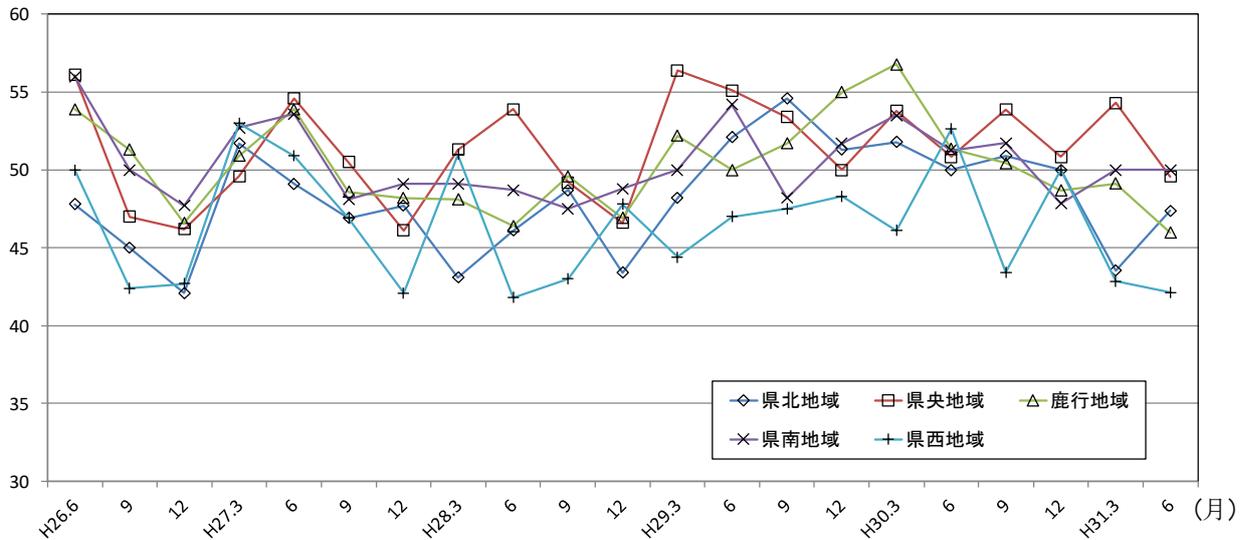
表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		52.6	43.4	50.0	42.9	42.1
家計動向関連		50.7	42.1	47.1	38.6	38.6
企業動向関連		53.9	44.1	55.3	45.8	51.5
雇用関連		62.5	50.0	50.0	60.0	31.3

表2-20 回答構成比

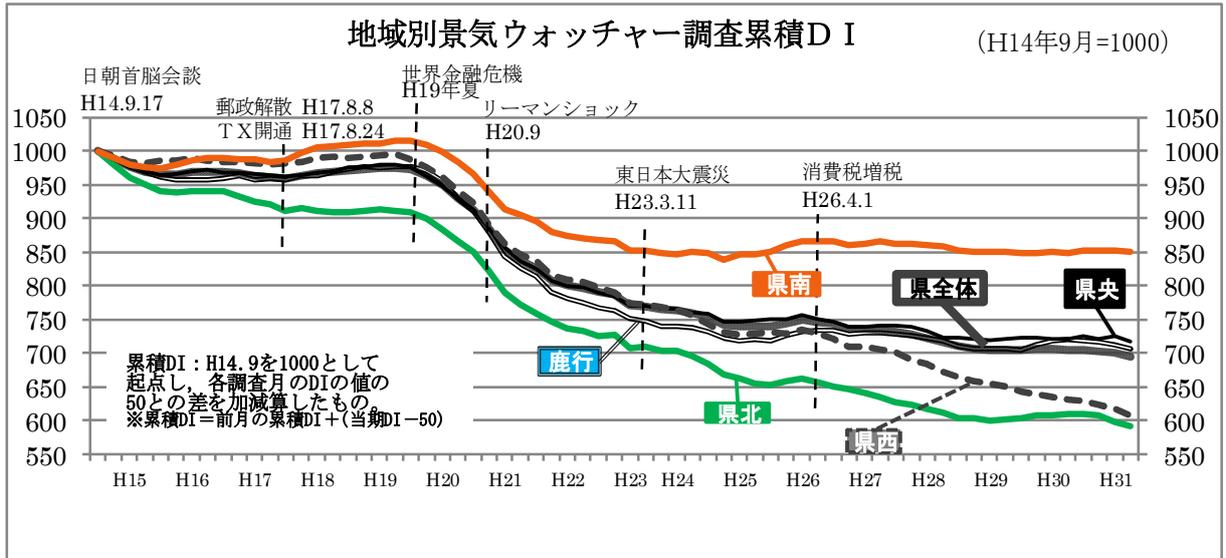
	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年
	6月	9月	12月	3月	6月
良くなっている	0.0%	1.8%	3.4%	0.0%	0.0%
やや良くなっている	29.8%	14.0%	13.8%	12.5%	16.7%
変わらない	54.4%	50.9%	63.8%	55.4%	50.0%
やや悪くなっている	12.3%	22.8%	17.2%	23.2%	18.5%
悪くなっている	3.5%	10.5%	1.7%	8.9%	14.8%

(DI) 図2-2 地域別先行き判断DIの推移



	26.6	26.9	26.12	27.3	27.6	27.9	27.12	28.3	28.6	28.9	28.12	29.3	29.6	29.9	29.12	30.3	30.6	30.9	30.12	31.3	R1.6月
県全体	52.7	47.1	45.1	51.6	52.4	48.2	46.6	48.5	47.5	47.6	46.7	50.3	51.7	51.1	51.3	52.4	51.2	50.1	49.5	48.0	47.1
県北	47.8	45.0	42.1	51.7	49.1	46.9	47.7	43.1	46.1	48.7	43.4	48.2	52.1	54.6	51.3	51.8	50.0	50.9	50.0	43.5	47.4
県中央	56.1	47.0	46.2	49.6	54.6	50.5	46.1	51.3	53.9	49.2	46.6	56.4	55.1	53.4	50.0	53.8	50.8	53.9	50.8	54.3	49.6
鹿行	53.9	51.3	46.6	50.9	53.9	48.6	48.2	48.1	46.4	49.6	46.9	52.2	50.0	51.7	55.0	56.8	51.3	50.4	48.7	49.1	46.0
県南	56.0	50.0	48.2	52.7	53.6	48.1	49.1	49.1	48.7	47.5	48.8	50.0	54.2	48.2	51.7	53.5	51.3	51.7	47.8	50.0	50.0
県西	50.0	42.4	42.7	53.0	50.9	46.9	42.1	51.0	41.8	43.0	47.8	44.4	47.0	47.5	48.3	46.1	52.6	43.4	50.0	42.9	42.1
全国	53.3	48.7	46.7	53.4	53.5	49.1	48.2	46.7	41.5	48.5	49.0	49.0	51.5	50.4	51.3	50.1	50.9	50.7	47.0	47.9	46.3(原数値) 45.8(季節調整値)

(参考) 地域別累積DI



III 景気の判断コメント — 1 景気の現状判断コメント

(1) 県北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 O : 主だった回答が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	小売業 (弁当・惣菜店)	大きな行事もあり、また天候にも恵まれたことが大きな要因と感じている。
		食堂	近くのホームセンターなどへの客が多くなったせいか、土曜・日曜日は手がまわらない。ネットで調べて来て下さる客が多い。
	企業	製造業 (電気機械器具)	前年と比べ、売上が増加している。
やや良くなっている	家計	観光型ホテル	国体の影響でお客様に動きが出てきた。
		レジャー施設	4月から5月のゴールデンウィークが10連休のため、レジャー施設全般に運営状況が良かったと伺っているが、それが今月も続いている。
		ゴルフ場	日々の単価が少しずつ落ちてきている。
	企業	製造業 (電気機械器具)	作業量が増え、作業が遅れ気味である。
		製造業 (化学工業)	取引先の状況で浮沈はあるが、総じて物が売れていると感じる。
	雇用	学校就業関係者	求人状況が良い。
変わらない	家計	スーパー	前回の回答で「やや悪くなっている」と答えたが、その時点と比較してあまり変化がなく、特売品に客数が大きく左右されており、イベント時も以前と比べ、贅沢志向から一般志向へと買い方がスライドしている。無理な買い方はしていないように思える。
		スーパー	店の売上高も前年比で99%~100%とほぼ同じである。たまにレジに入るが、特に高い商品が売れていると感じない。
		コンビニエンスストア	客数で見た際は厳しい。一方で客単価で見れば上がっている面もある。総合的に見ると変わらないと思う。
		自動車販売店	来客数、実績など同水準で推移している。
		小売業 (水産物)	客数はやや上向きだが、客単価が低い。
		小売業 (時計)	元々来店客数が少ない業種なので、高額品が売れないと売上げ増にはならず、変わらないと判断した。
		スナック	消費税のことなどを気にして、お金を使うのを控える人が多いようにみえる。
		ラーメン店	今年2月から5月までの売上げがやや伸びている。
		観光型ホテル	4月、5月、6月を考えると、消費すべき日とそうではない日と、リズムが同じである。
		旅行代理店	現在の受注状況は、3か月前と比較しても前年状況といずれも変化がない。
		タクシー運転手	1日の売上げ及び乗車回数を3か月前と比べても大きな変化はなく、実際の仕事の流れからも実感としても変化を感じていない。
		タクシー運転手	お客様の様子から、残業がなく定時に帰ることがほとんどで、収入が減っているのが現状との声が聞こえる。
		タクシー運転手	ショッピング (スーパーで買い物) しても、あまり買い物しない。節約している感じがする。連休明けで家計節約観が強まった感じがする。
		ドライブイン	販売金額は99%、客数の伸びは103%、客単価99%で変わらず。季節商品等を揃えているが、お客様が欲しい時に在庫がなかったりするので、先に先に仕入れると、今度はお客様がみえなかったりして、ロスになったりする。偶数月は年金の支給があり、お客様も活発なはずだが、この天気でイマイチである。
		ゴルフ場	人員不足のため忙しく感じるが、実際に景気が良いと感じるかといえば、特に普段と変わらない。
ボウリング場	団体利用は順調に推移しているが、一般の利用者は概ね例年並みに推移している。大型連休中は、例年以上の売上げがあった。		
住宅販売会社	特段お客様の購買意欲や来店が増えていない。		

変わらない	企業	製造業（食料品）	納豆における国内消費は昨年対比で+6%程度。比較的堅調な業界であるが、資材高騰分を吸収するのが精一杯の状態。石油系資材は昨年対比で8%程度上昇している。
		製造業（電気機械器具）	2019年に入ってから同様に低調のまま推移している。
		製造業（一般機械器具）	業務の観点から、工場の場合繁忙期により年間で変動するため、3か月前との比較は難しいので、前年同時期と比較すると工場の仕事量は近い推移である。
		製造業（輸送用機械器具）	5月国内新車販売は10月の消費増税を控え前年比6.5%増の39.6万台と2か月連続でプラスとなった。一方、海外では北米市場の減速に加え、中国市場も鈍化の傾向であるが、特に中国においてトヨタとホンダが主力車種を筆頭に大幅な販売増を見せているようだ。しかし、我々の生産には大きな変化は見られていない。また、依然としてワーカーの人手不足は継続している。
		建設業	金融関係の方の話では、「良い」という事も「悪い」という事も出ないので、景気は変わっていないと思う。
		金融業	3か月間での全体的な動きとしては大きな変動なく推移しているものと判断。設備投資等も慎重になっており、現状維持にて対応している状況。
		不動産業	消費増税による駆け込み需要についても顕著ではない。
雇用	公共職業安定所	新規求人数、有効求人数ともに前3か月、前年同月期でみても、ほぼ変わらない状況である。	
	求人開拓員	東北地域に赴任して3か月が経とうとしているが、仕事は普通に順調に進んでいるし、求職者の様子も正社員の求職より、パートの求職が多いくらいで特に変化は感じられない。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	売上が昨年同期よりやや落ちている。
		商店街代表者	客からの問合せや見積り依頼が減ってきている。
		衣料品販売店	客数が減少している。
		小売業（酒類）	アルコール飲料離れが目立つ。特に飲食店の宴会が年々減少傾向。酒販店として不安を感じる。
		レストラン	全体的に街の様子から、やや悪くなっていると判断した。
		ラーメン店	ディナータイムでは、新規参入してきた回転寿司にファミリー層が流れている。
		観光型ホテル	宿泊予約は昨年同期とほぼ変わらないが、日帰り予約（特に大人数の団体）が減少しており、景気はやや悪くなっていると判断する。
		ゴルフ場	来場実績の流れがやや落ちている。（対前年比103→101）
		写真店	6月よりフィルムの20～30%値段上昇をはじめ、商品の材料が値上がりはじめているので、写真好きな方もコストを抑えようとする動きがある。
企業	林業関係者	流通に関して少し滞っているように感じる。季節要因も強いが、価格の下落幅が大きい。	
	水産業関係者	長いゴールデンウィークだったからか、その後、客数が目に見えて減少した。	
	製造業（精密機器）	仕事が減っていると周りで言っている。発注の数が減っている。	
	運輸業	倉庫・輸送貨物の見積り問い合わせが減少している。	
	運輸附带サービス業	弊社的には、売上げ、残業時間などほとんど変わらない状況であるが、他事業のセールスなどの方が来ると、今月は特に力を入れている様子が伺える。	
雇用	求人広告	閉店や縮小などの情報が増えているように感じる。	
家計	酒・各種商品小売業	得意先の飲食店で閉店が3店舗あった。	
	小売業（燃料）	10連休前後から販売量が大幅減となっている。前年比でマイナス15～20%。	
	タクシー運転手	飲食店の閉店が止まらない。	
悪	企業	製造業（電気機械器具）	液晶・半導体製造装置関連の受注が増えてこない。原子力関連の引き合いも国内はかなり少なく、海外が多少あるくらいである。
		製造業（食料品）	原材料、人件費、運賃などが高くなっているにも関わらず、食品スーパーのチラシでの価格を見ると、昨年より安く、価格重視がうかがえる。
		製造業（精密機器）	注文が減っているのと、新しい仕事が止まっていることから、悪くなっていると判断した。

## (2) 県央地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	—	—	—
やや良くなっている	家計	商店街代表者	改元や、消費税率の変更の準備に伴う需要があり、仕事量が増えている。
		スーパー	ご利用の様子はあまり変わらないが、商品の価格が上がっている。点単価の上昇。
		コンビニエンスストア	10月の増税を控え、増税対象の消費は上がっているように感じる。
		レストラン	茨城国体関係での利用・問合せも多く、良くなると感じる。
		レジャー施設	ここ数か月は、求人を出してもあまり応募者が集まらない状況で、他のもっと条件の良いところに流れている感じのため、景気はやや良くなっている気がする。
		理・美容店	当店は3月は売上げが良くなかったが、今月は前半から客足が伸びているので、期待も込めてやや良くなっていると判断した。
	ペット美容室	季節要因が大きい。新規のお客さま（仔犬のうちから来店してくださる）が、ひと月にお一人いらっしゃる。	
雇用	人材派遣業	受注・売上とも増えている。	
変わらない	家計	百貨店	アイテムによって凹凸が出ている。売上げアップのための施策を+αで実施していることからプラスにはなっているが、景気とすると「良くなっている」とは言えない。
		スーパー	ゴールデンウィークを除くと、売上げにさほどの変化が見られず、変わらない。
		小売業	客数、客単価等の数字にあまり変化が見られない。
		自動車販売店	前年同月比でもほとんど変化がない。また、直近でもほとんど変化はない。
		楽器販売	ここ数か月、売上げ推移がまあまあな印象で、今も続いていると感じられる。
		レストラン	変化が見られない。
		レストラン	総会の動きは例年同様にあるが、客単価アップ等は見られない。景気動向は変わらないと感じる。
		都市型ホテル	接客している中で、問合せ件数、予算などあまり変わらない。（打ち合わせは平均で2~3か月前が大半である。）
		観光型ホテル	大型連休効果はあったものの、その後についてはあまり変化が見られない。
		旅行代理店	弊社の仕事の依頼状況が、対前同時期比でも変化を感じられない。
		旅行会社	給料が変わらない。
		バス運転手	ガソリン価格の高止まり。ここ1週間で若干価格は下がったものの、また上がるのではないかと不安から、変わらないと判断した。
		タクシー会社	水戸駅・勝田駅等を利用している人の流れに変動なく、活発に動きがあると見ている。既存顧客の利用に変化なく、全体的に変わらない状況にあると判断する。
		観光名所	今年はGWの10連休もあり、例年よりも売上高としては良かったのだが、後半は失速し、GW明けはその反動でやや停滞しているように感じる。消費額としては大きな連休があっても変わらないように思える。
		レジャー施設	先行き不透明な状態だが、燃料費（仕入単価）が、ここへきて値下げの市況となってきたので、今後は出港艇も増え、燃料販売数量も増加していくのではないかと考えられる。
建築設計事務所	残業を極力しないで生産力を上げる努力のせいも、普段より慌ただしく、忙しく感じるが、受注は横ばい傾向である。		

変わらない	企業	製造業(食料品)	受注数は全体的に横ばいである。
		製造業(印刷・同関連業)	普段と変わらない。
		製造業(窯業・土石製品)	個人需要は相変わらず低迷していると思う。
		製造業(一般機械器具)	3か月前と変わらないが、少し元気がなくなりつつある。注文も減少気味である。
		建設業	特に変化が認められない。
		金融業	業種による差はあるものの、全体的に売上高横ばいにて推移している企業が多く、設備及び運転資金においても慎重であり、従前と比較しても変化はないと思われる。
		サービス業(コンサルタント業)	案件の数が変わらない。
雇用	求人広告	思うように人材採用ができず、業績が上がらない。	
	公共職業安定所	当所管内では、有効求職者数は平成24年4月から85か月連続で前年同月比を下回り、有効求人数は平成29年2月から26か月連続で前年同月比を上回っていたが、平成31年4月に対前年月日でマイナス2.8%に転じた。有効求人倍率は1.63倍で73か月連続で前年同月比を上回っていたが、平成31年4月に対前年月日でマイナス0.01ポイントに転じた。平成31年5月には有効求職者数は引き続きマイナス傾向を維持し、有効求人倍率はプラスに転じると見込まれる。大型連休もあって、有効求人倍率が前値同月比でマイナスになったことの要因の一つであると考えている。	
	学校就業関係者	企業からの求人についての問い合わせが増加している。しかし求人情報の大学生給与単価については変動がないため、人手不足と雇用の実態とのアンバランス感がある。	
	求人開拓員	当施設を利用する求職者数、事業所からの求人数に特段の変化が見られない。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	例年、3月から5月までは異動の時期で忙しいが、今年は、個人の来店客数も減り販売単価も低くなった。民間企業、事業所からの需要がかなり減っている。
		百貨店	今月の売上高の前年比と3か月前の売上高の前年比を比べると悪化している。
		スーパー	3月頃に比べて、客数・客単価ともに減少している。
		スーパー	米中の問題で株価が低迷しており、また、年金の不足2000万円などの報道もあり、節約ムードが高まっているようだ。
		スーパー	客数、客単価、点単価の数値状況と販売状況から、現状維持が難しくなってきた。
		家電量販店	来店客数が毎月減少している。少子高齢化は避けられない。
		農産物直売所	平年と比べ、ギフト商品でお買得感を出した物が動いている。ボーナスが出たはずの週末も同じ動きであった。
		割烹料理店	平成の最後の4月末までの期間は、そわそわ感がありお客様は今よりも動いていた。今は5月に令和という新元号に変わり、少し落ち着いたような気がする。
		都市型ホテル	現在のホテル全体での利用状況、予約状況が伸びておらず、対前年でも下回る予測である。各会社とも、人数等の縮小などもあり、下がっていると思われる。
		タクシー運転手	このところ、繁華街へのお客様の減少により、3か月前の前年比と先月の前年比を比べると低調なので、景気はやや悪くなっていると判断する。
		タクシー会社	若干、売上げが落ちている。期待していた改元に伴う経済効果も薄い感じ。
		ドライブイン	3か月前は年間で一番来客数の多い時だった。今はインバウンドのお客様の姿ばかりである。
		ゴルフ場	年度当初(4月)からの会員権の動きにやや鈍さを感じられた。(法人関連でも出足の鈍さを感じた)
		スパ・銭湯	超大型ゴールデンウィークは連日平均した入館者数となり、特に混み合う日はなかったが、県外からの客を中心に賑わいをみることができた。しかし、ゴールデンウィーク明けからは少し寂しい状況になっており、心配するところ。夏期休暇も長い休暇となるため、日頃のレジヤへの出費を控えてくるのではないかと。
		住宅販売会社	住宅業界は、2019年3月契約で消費税が切り替わる為、3か月前と比べて明らかに来場数とお客様の購買意欲が減少している感がある。それでいて、10月の増税が確定せず、増税対策が明確化されていないため、余計に衰退傾向に感じる。
悪	企業	農業関係者	野菜の価格が低迷している他、梅の価格も下落しており、収入は減っていると思う。
		製造業(印刷・同関連業)	資材高騰の影響があり、対前年と比べても売上げの減少が見られる。
		製造業(金属製品)	オリンピック関連の特需も終わり、仕事の量は減少傾向になっている。スポットの仕事があれば分けて欲しいとの話が出てくるようになった。
		製造業(精密機械器具)	3月末は多くの会社が決算期末、年度末となり、予算消化の為か動きが活発になる。当社の場合、前期3月末はこれまでになく過去最高の受注・売上高となった。そのため、その月との比較となれば、どうしても今月は「やや悪くなっている」や「悪くなっている」の判断になる。
		運輸業(道路貨物運送業)	ダンボール用原紙、機能樹脂などの輸送量が減少している。
		不動産業	前年比と比べて、来客数が減っている。緊急性のあるお客様が減っている。
		サービス業(広告業)	消費税増税に対する懸念が大きく、販促予算を渋っている。
悪	企業	製造業(食料品)	大型GWを過ぎ、消費動向は下向きになった。

## (3) 鹿行地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	小売業	客数・客単価が上昇した。
やや良	家計	農産物直売所	昨年より高い単価にもかかわらず、商品が昨年同数売れている。
		洋食食堂	3月に、市の主催による豚肉料理のお店の紹介（新聞折込チラシ等）、5月に茨城新聞に掲載されたオリジナル料理等の案内で大幅に客数がアップした。4月に駐車場の舗装工事を行い、お客様の利便性がアップしたと思う。
		観光型ホテル ドライブイン	宿泊利用者の増加があった。 改元之际し、大型連休など余暇を楽しめる取り組みがあった。
変わらない	家計	商店街代表者	管内の事業者へのヒアリングは、総じて不変の回答が多い。ある小売業では、原材料費が上がるがなかなか販売価格に転嫁できない。また、大手との競争は厳しく、利益確保は困難だという声を聞いた。
		スーパー	3月の前年比と今月の前年比で大差がない。
		スーパー	県内店舗の売上、粗利益、生産性等に大きな変化がない。ほぼ、予算どおりの進捗状況。
		家電販売店	増税を控えている3か月前も状況は良くなっており、その点に関しては変わらないと判断している。
		小売業（薬品店）	3か月前と比較して、売上金額はほぼ変化なし。客数は多少増加しているが、客単価が下がっている。
		和食レストラン	売上げに大きな変動なし。仕入れ値もほぼ横ばい。
		観光型ホテル	3か月前と比べても予約状況など変わらないと思う。
		運転代行	売上げの数字があまり変わらない。
		タクシー運転手	現状の仕事から判断しても、景気が良くなっているとは思えない。変動もあるが、以前よりも仕事量は減っている。今までタクシー使用だったのが他の交通機関になっている。
		ゴルフ場	予約状況により判断。
		ゴルフ場	特に変化を感じるような事象は見受けられない。
		レジャー施設	マリンスポーツのシーズンになり、来客数は増えて、用品、利用料は増加しているが、本体の商談は増えていない。
理・美容店	5月の連休をみていて、旅行に行った人はあまり聞かず、近場でという人が多かった。		
住宅販売会社	特に変化はない。		

変わらない	企業	製造業（鉄鋼業）	時期的に生産量が多くなるものもあれば、減少するものもあるので変わらない。
		製造業（食料品）	中小企業や中小企業のお客様が大半。従って中小企業の業績が良くならないと上がらない。しかしながら明るさは見られる。
		製造業（食料品）	新聞等の報道によれば、企業の業績悪化見通しから、アルバイトの時給引き上げが難しいとして天井感が出ているとのことからも、現状維持ではないかと思う。
		製造業（鉄鋼業）	大きく景気が変わる兆候は感じ取れない。
		製造業（金属製品）	米中の貿易摩擦の影響は少しずつ受けており、特に中国に向けた自動車用パーツはアッセンブリーになって、米国に輸出されるものも多くあったが、現在は受注不足となった。今後もこの状況は続くと考えられ、遠からず日本の消費力にまでおよぶ恐れがある。
		建設業	好景気と言われて久しいが、その様な様子を感じられずにいる。
		建設業	新築棟数が少ない。
		運輸業（道路貨物運送業）	実感が無い。
		金融業	取引先などの状況を見てみると、良くなっている企業と悪くなっている企業が混在している。3か月前と比較して変わらない。
		保険業	自動車保険更新で前年と同じ契約でお願いしますと言う人が多い。
		不動産業	変わらないが、活気がないように思う。
		サービス業	元号が変わって景気の浮揚感は期待されるが、相変わらず消費を刺激するような話題に乏しく、実際には景気が良い、または良くなるという話題は聞こえてこない。 また、先行きの雇用確保に対する不安感が強くなってきており、人に関わる諸経費高騰に対する企業側の準備、検討が進んできており、今後さらに値上げが続くことを予想する人が多い気がする。
		火力発電所	製造量に変化なし。
		雇用	民間職業紹介業
公共職業安定所	新規求職者数及び新規求人数は前年同月に比べて増減を繰り返しており、大きな変化は見られない。		
学校就業関係者	状況が変化している判断材料が特にない。		
求人开拓員	出張相談や求人开拓に出向いてみて、求職者や事業主と懇談すると決まって出てくる言葉が「本当に景気は良くなっているの？」である。働いても働いても生活はよくなる。仕事の引き合いはあるのに人材が集まらない。結局は断りの連絡をしてしまうほかないとのことである。		
やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	コンビニ業界として大きく客数が前年を割れている。買い控えや、より安いドラッグストアに流れていると感じる。
		コンビニエンスストア	店舗数が増えた。
		衣料品販売店	顧客様の来店数にさほど変化がないものの、一般客の来店が減少している。
		農産物直売所	より商品の値段を重視するお客様が増えている。
		小売業（菓子類）	3か月前は、売上げ対前年比が横ばいだったが、今はやや悪くなっている。（対前年比）
		小売業（食品）	10月に消費税が上がるので、やや悪くなっていると判断した。
		割烹料理店	ゴールデンウィークが大型だったこともあり、客足が伸びず、5月は過去最低の売上げだった。
		タクシー会社	工事関係者からの注文が少なくなった。
		クリーニング店	雑貨、アイス、食品などの商品の値段が上がっているため、少しでも安い物という傾向である。
		企業	農業関係者
製造業（化学工業）	当社業績が悪化傾向にある。		
製造業（電気機械器具）	米中の関係悪化による影響が感じられる。		
製造業（ゴム製品）	オーダーが少し減っている。		
運輸業（道路貨物運送業）	業績は3か月前と比較して横ばいではあるが、前年対比はマイナス傾向にある。		
雇用	人材派遣業	事務スタッフ系のオーダーが減少傾向。	
悪	家計	日本料理店	3か月前に比べ、入客数が減少している。
		住宅販売会社	展示場への来店数やご契約数が減ったように感じる。

(4) 県南地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	—	—	—
やや良くなっている	家計	家電販売店	前半より少し数字が上がった。
		ホームセンター	客数が増えている。
		和食食堂	5～6月は観光シーズンなので普段よりは客数は多い。
		日本料理店	3か月前の前年比と今月（5月）の前年比を比べると、今月（5月）の方が良くなっている。景気はやや良くなっている。
		タクシー運転手	今まで病院の上下のみご利用いただいていたお客様が、高級スーパーへ立ち寄るようになった。
	企業	製造業（非鉄金属）	3か月前は販売先の減産や生産停止により売上を落としたが、現在は回復基調となった。
		建設業	消費税10%による駆け込みがやや見られる。
		不動産業	売買：消費税増税前の駆け込み需要の反動で落ち込む予想をしていたが、影響はないように思える。 賃貸：例年は閑散期なのだが、繁忙期に動きが少なかったためか部屋探しをする人が多い状況。
	雇用	公共職業安定所	新規求人倍率では微増であった。
	変わらない	家計	スーパー
スーパー			客単価が横ばいである。
スーパー			客数、客単価、買上げ点数すべてほぼ横ばい状況が続いている。
コンビニエンスストア			固定客がしっかりしている。
コンビニエンスストア			客数が昨年に対して減少傾向が続いている。商品の購入個数も減っており、3か月前と変化はしていない。
家電販売店			3月以降大きく入店動向など変わりはなく、入店数は横ばいである。
小売業			施設売上げは、3月と比べほぼ前年売上げを推移し基調は変わらず。ファッション・雑貨関連はイーコマースの影響もあり、全体的に苦戦している。
小売業（生花店）			つくば市内の開業・開店が多く見受けられるが、特定の地域のみで、周辺部は全く変化の兆しは見えない。つくば市の回覧冊子の中にも、周辺地域活性化の意見交換会開催の案内があるなど、中心部への集中化と周辺地域の過疎化は止まらないと判断する。
和食食堂			要因なし。
洋食食堂			当店のお客様は、平均して生活が安定している。お芝居、コンサート、食事付（15,000円のチケット）等に、参加される申し込みが多い。会話の中から、日々どちらかに外出（教室・体操・カラオケ・食事会等）されていて、また、70歳以上だがベンツを乗り回している方が多い。
寿司店			お客様の会話を聞いたりして変わらないと判断。店の売上げもほとんど変わらない。
都市型ホテル			3か月前と比較して、現在は宿泊・婚礼・宴会・レストランも大きく変化もなく、個人消費、企業もあまり変わらないと思えた。宿泊のインバウンドもある程度落ち着きをみせていた。婚礼受注は減少するも一般宴会は比較的獲得できている。レストランも3か月前とあまり変化なかった。以上のことから、3か月前と変わらないと思う。
都市型ホテル			宿泊単価や宴会単価があまり変わらない。
タクシー運転手			日中の会社からの送迎依頼はかわらずあるが、市で行っているデマンドバスの便数が増えたので、一般客が減ってしまっている。
タクシー運転手			お客様が、あまり変わらないと言っていた。
サービスエリア		平成29年2月の茨城県内圏央道全通に伴い常磐自動車道の交通量は減少傾向にあったが、平成30年6月に外環道が開通したことにより交通量は微増の傾向にあり、入館者も同様の傾向。各個人の購買意欲は相変わらず高い率を示しており、交通量の増加したエリアにおいては、それなりの売上を示していることから、前回同様特段の景気の変化はないと判断した。	
ゴルフ場		お客様の来場状況に大きな変化は見られない。	
ゴルフ場		来場者が増えているとはいえ、これは季節的なもので、景気が上向いているとは思えない。これといって、景気が良くなっているという要因は見つけれない。	
ボウリング場		土日のファミリー層の動きに変化を感じられない。	
理・美容店		売上げも動員も変化がない。	
設計事務所	仕事量が変わらない。		

変 わ ら な い	企業	農業関係者	ゴールデンウィーク等もあったが、レジャーや旅行の話も少なく、働いている方が多いように感じた。	
		農業関係者	6月期（初旬まで）の来客数・客単価を今年度3月期～と比較すると両者ともに増加傾向。これは毎年の傾向である。前年同期と比較すると、ほぼ変わりはない。	
		製造業（食料品）	小売客に対して客単価に変化は感じない。来客からネット注文に代わっている。業務用相手も注文の期間に変わりはない。	
		製造業（一般機械器具）	状況に変化なし。	
		製造業（食料品）	客数や売上げがあまり変わらない。	
		製造業（家具・装備品）	期待はしているが、今日の流れに乗ることができないのか？日々変わりはない。	
		製造業（その他）	受注量として、特に変化は見られない。ただ、産業用機械方面の景気は下降気味に感じる。	
		製造業（窯業・土石製品）	受注はあるものの、建設業者の人出不足による工期の遅れ等により、出荷に至らず売上げが先送りとなってきている。	
		建設業	3か月前は年度末で、受注量がかなりあった。それは年度末の特有な要因である。それを取り除けば、3か月前も今もほとんど変わらない工事受注量がある。よって、景気は変わらない。	
		運輸業（倉庫業）	連休前の保管、運送は多かったものの、連休明けは落ち着きが出ており、例年同様の動きと感じられた。	
		金融業	設備投資等の事業拡大に向けた資金需要も少なく、企業の慎重な姿勢は変化なし。また、全体として消費意欲は乏しく、3か月前と比較して特段変化はない様子である。	
		不動産業	売上高をみても前年並みで推移しており、変化は感じられない。	
		雇用	求人広告	担当エリアの顧客と話す中で、景気の変化を特に感じない。
			学校就業関係者	業務の関係から学卒者の雇用状況を知ることができるが、年度当初から昨年度よりも求人が良く、3か月前と比べても依然良い状況が続いている。
やや悪	家計	農産物直売所	野菜の売上げが20%ぐらい少なくなっている。単に生産物の減少ではない。年号が令和になっても、食は必要。消費者は様子を伺っているのだと考える。	
		都市型ホテル	当ホテル側の立場からみると、やや悪くなっていると判断せざるを得ない。3か月前との比較で、3月は年度末だったので宿泊客が多く、当ホテルの売上げも良かったが、現在はその時に比べ稼働率が下がってきている。それだけ各会社の出張及び長期滞在客が減ってきているからである。特に土日の稼働が非常に悪く、宿泊費節約のため、金曜の夜遅くまで仕事をしていても宿泊せず、がんばって深夜のうちに遠方まで帰ってしまう傾向にある。当ホテルの売上げも、3月から6月にかけてゆるやかに下降線となってきている。	
		タクシー運転手	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗車回数が少なくなっている。</li> <li>夜間飲食店通りの人出が少ない。結果、お店からの迎車要請が減っている。</li> <li>企業関係の利用が減少している感がある。</li> </ul>	
		テーマパーク職員	屋外施設のため、少なからず梅雨時期という影響がまったくないとは言いきれないが、前年度の同時期3か月前とも比べてみると、天候に恵まれた日でも来場者が少なくなっている傾向にある。あくまで施設内でお客様に接して会話や様子からの判断になってしまうが、今年度のゴールデンウィークは10連休の方もおり大型の連休であった。その際に遠くへの旅行、ショッピングなど出費が大きくかかるような余暇活動をされる方も多く、翌月の6月ということもあり、少なからず利用料金の決して安くはない当施設で判断すると、景気は弱いように感じる。	
		レジャー施設	6月開催のレースの売上が、2月開催の似た条件のレースと比較して減少している。また、昨年度同時期と比較しても減少している。	
		理・美容店	当店は理容店だが、景気の影響なのか髪を伸ばす方が多い気がする。特にお年寄りの方が髪を伸ばされる感じがある。やはり家計的に厳しいのだろうか。	
		企業	製造業（窯業・土石製品）	年度の始まりの時期で公共工事の量が少ない。
雇用	建設業	見積り依頼が少ない。また、見積りしてもなかなか決まらない。		
	人材派遣業	取引先の生産量や受注が減少している。		
悪	家計	小売業（米穀）	業務用以外の動きが悪すぎる。今年に入ってから、毎月前年割れである。現金、ICよりちょっと安い、電車の割引きチケットの売上高が凄いらしい。厳しいので、ちょっとでも安くということのようである。	

(5) 県西地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	企業	製造業（窯業・土石製品）	利益無き繁忙だが、現時点では忙しい状況である。私たちの業界は6月は閑散期だが、当社は今月が1年前の時と比べても注文が入り、見積りしても思った以上に受注になっている。他の同業者は皆、総じて「仕事が少ない」と言っている。ありがたい。「勝ちに不思議な勝ちあり、負けに不思議な負けなし」の心境だが、仕事を取る努力は他社よりはしている。
やや良	家計	ホームセンター	大型GWの影響もあり、若干客数が増加し、客単価も伸びた。その後の客数も昨年と比べ若干伸びている。
	企業	製造業（化学工業）	一部のスマホ用途等電子材料需要が若干持ち直している。
		製造業（窯業・土石製品） 製造業（金属製品）	増加とは言えないが、受注額が安定している。 GW明けから受注高が増え、現状納期確保に奮闘している。
変わらない	家計	スーパー	3月から5月までで前年と同じである。点単価が下がり、客数は同じである。
		衣料品販売店	お客様と話をしても、何気ない雑談が多く、景気についての不満しか聞かれないので、変わらないような気がしている。
		家電販売店	売上げ、入店客数とも大きな変動を感じない。
		農産物直売所	3か月前と比較して、若干青果物の価格は上昇したが、農家の手取りはさほど増えていない。店舗のお客様購入数もほぼ横ばい。
		レストラン	令和に元号が変わったが、特別にお客様に変化はない。
		食堂	3か月前も今月も、去年と変わらない売上げである。
		旅行会社	むしろ少し悪くなっている気がする。いろいろな意味で控えめな気がする。 (ランクを下げる等) 客単価が減少傾向にある。
		タクシー運転手	景気が上昇しているとは思えない。
		タクシー運転手	飲食店も店じまいが早いので、夜の仕事がない。会社も残業がないので、帰りが早い所が多い。
		ドライブイン	利用者による購買単価に変動がみられない。
		ドライブイン	来店者数、客単価とも大きな変化はなく景気が良くなっている感を感じ取れない。逆に後退感も感じ取れない。
		ゴルフ場	予約状況にて、変わらないと判断した。
		パチンコ店	3か月前と比べて特に変化がなかった。
		理・美容店	お客様との会話の中でも可もなく、不可もなくという感じ。
商店街代表者	来店客数や売上金額が変わらないと見込まれる。		
	住宅販売会社	消費増税に対し、昨年度末の景気の昂りがさほどなかったため、落ち込みも少なく変化が無いように感じます。しかしながら、来場状況を見ますと徐々に落ちているため、県西においては景気不安が大きいのではと思う。工業系の業種によっては、ここにきて忙しいとの話も聞こえている。	

変わらない	企業	製造業（電気機械器具）	受注増による人員増の要請は、一旦停止している。
		建設業	特に変化を感じない。
		金融業	現在も、前回と比較して特段の変化は感じられない。慢性的な人手不足感が続いており、企業の設備投資等へのマインドも上昇は感じられない。
		不動産業	賃貸の成立の単価があまり変動していない。
	サービス業（コンサルタント業）	昨年の6月調査の際に賑わいが出てきたように感じると回答したが、今年はその賑わいすら感じず、変化は感じられない。	
雇用	人材派遣業	仕事の依頼があまりない。	
	学校就業関係者	4月から新年度が始まったが、本年度も企業からの求人推移は昨年度と変わらない。	
	求人開拓員	管内事業所の求人傾向に特段の変化は見られなかった。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	御奉仕品（かなり安い）を提示しても必要な品、数しか買っていない。
		スーパー	お客様の節約志向が高まっているように思う。
		自動車販売店	新型車効果が鈍くなってきた。
		ラーメン店	材料（小麦粉）の値上げから、やや悪くなっていると判断した。
		和食レストラン	原材料高騰で、3か月前前年比と今月の前年比を比べると、今月の方が低調なので、やや悪くなっている。
		ゴルフ場	GW10連休後の予約動向が思わしくない。購買意欲も低い印象。
企業	農業関係者	金融取引商品への切替が、鈍調な動き。	
	製造業（窯業・土石製品）	前年同月と比べても受注数が減少しており、3か月前稼働率の約70%程度となっている。	
	製造業（金属製品）	月ごとの仕事量の変動が激しい。トータルすると悪い。	
	建設業	公共工事の発注がまだ少ないのと、材料やガソリン等の高騰があり、やや悪くなっている。	
悪くなっている	家計	商店街代表者	新年度始まりの少しざわついた感が収まり、静まりかえっている。天候が定まらないのも要因。
		コンビニエンスストア	SNSやメディアにより多く報道されている事から、イメージの低下を招いてしまっている。全体的な客数も低下している。
		製茶販売	安い物に移行したり、高い物でも一回に買う金額が少なくなっている。
		日本料理店	ゴールデンウィーク後の来店客数、予約等激減している。今までに経験がない。
		都市型ホテル	ゴールデンウィークの10日間、大型連休のためお客様来場数が減少した。（観光地ではないため）
		旅行代理店	4月から全商品の値上げが甚だしい。物価高になっている。残業減（働き方改革による）で収入減になっている。
		クリーニング店	変わらず、安価の方にお客様が流れる傾向がある。
	企業	製造業（印刷・同関連業）	資材の値上げが4月1日から行われたが、価格に反映することができていない。
雇用	求人広告	お客様の製造業企業から伺った話だが、半年先の受注見込みが立たず苦戦しているとの事だった。それ以外の同業種企業からも似たようなネガティブな意見が多く、景気の悪化が感じられるようになった。	

Ⅲ 景気の判断コメント — 2 景気の先行き判断コメント

(1) 県北地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	観光型ホテル	国体やオリンピックが更に現実味をおびてきている。
		旅行代理店	茨城国体開催の関係で、受注状況は非常に良い。ただし、一時的な特需だと考える。
やや良くなっている	家計	スーパー	消費税10%前の特需で物、商品によっては前倒しで売れると思う。
		コンビニエンスストア	タイミングとしては増税前にあたるので、増税前に買っておくといった消費心理は少なからず働いて、景気としては少し上向くと思う。
		小売業（弁当・惣菜店）	景気に対しての不安感をおおるような報道も多いが、実際はさほどではない気配である。
		観光型ホテル	国体関連の予約が好調で、景気はやや良くなっていると判断する。
		タクシー運転手	国体関連での来県客の増加予想から、やや良くなっていると思う。
		レジャー施設	これから茨城国体の開催により、関係者が多数県内を訪問されるので（期待も込めて）プラス傾向に動くと思定されるため、やや良くなっていると判断した。茨城県を大いにPRしたいですね。
		ゴルフ場	来場予約の流れは前年の7～9月の流れに比して変わらないが、令和元年ムードと健康意識の高まりに期待。
	企業	製造業（電気機械器具）	作業量が現在より増えて、現在の人員では消化出来ない。
		製造業（化学工業）	米中貿易戦争の影響が懸念されたが、直接的に被害があるという話は聞かない。取引先の投資案件が増えている。
		金融業	地元大手製造業関連の受注において、県外業者から市内業者へ受注を変更する動きがあり、今後の受注増加が見込まれている。新規受注に対応すべく、設備投資等に踏み切る動きも出てきており、景況感上昇傾向となってくるものと判断。
	雇用	学校就業関係者	求人状況が良い。
		求人开拓員	3か月先を見据えると、9月末には国体開催等ビッグイベントが控えているし、仕事上でもさらに県北地域の情勢に詳しくなっているはず。それらを求職者に対して提供していきたい。
	変わらない	家計	商店街代表者
スーパー			増税問題で世の中の需要は増えると思うが、食品は最後の駆け込み需要のみと思え、後回しにされがちである。また、スーパーの中でも軽減税率対策補助金が受けられる企業と受けられない企業があり、弊社は後者のため条件的に厳しい。
自動車販売店			消費税増税を目前に控え、動きがあるように思えるが、前回のマスコミ報道にあおられていた消費者も、状況を静観していると思うので、特に大きな動きはないと思う。
小売業（燃料）			販売量（ガソリン）が大幅減となっているが、これ以上悪くはならないと思われる。
小売業（水産物）			衝動買いのような買い方もなく、必要な商品のみ購入されている。
小売業（時計）			米中経済戦争が良い方向へは行きそうもないが、株式もそれほど大きく悪くはならないと判断してプラスマイナスゼロで変わらないと思う。
スナック			将来に不安がある人が多いため、お金が回らないと思うので変わらないと思う。
食堂			常連客が来てくれるし、家族と同じような気持ちで接していれば変わらない。
観光型ホテル			ここ直近ではなく、消費者のお金の使い方には傾向があり、必要な物以外には消費しない。
タクシー運転手			お客様の利用頻度に大きな変化があるとは思われない。
タクシー運転手			市内の大手企業では、休日が増え（年休取得の法律化）等で、休日が多く収入面に不安がある。
ドライブイン			お客様の消費欲、購買欲を刺激する要素が不足している。
ゴルフ場			良くなってほしいとは思いますが、多分変わらないと思う。
ボウリング場			消費税増税を控えた中、駆け込み需要で利用される方が増加するとは考えにくい。増税後のお客様の推移を注意深く観察してみたい。

変わらない	企業	林業関係者	大きな変化はないと感じる。
		製造業（食料品）	消費税増税前の駆け込み需要は食品業界でも保存期間の長い食品に限られるため現状維持と推測する。
		製造業（電気機械器具）	前年と変わった傾向は見られない。
		製造業（電気機械器具）	今のところ、好調要因である対中国向け案件の回復の兆しがない。
		製造業（一般機械器具）	現状のまま推移していくと想定している。
		製造業（輸送用機械器具）	3か月後に大きな変化が見られるとは想定しがたい。
		建設業	昨年度まで県内で比較的積極的に不動産関連事業を展開してきた会社の方の話では、今年度以降は控えている様子の話を聞いたので、景気は下降してきているのだろうと感じた。
雇用	公共職業安定所	新規求人倍率もほぼ変わらない状況である。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	手持ちの受注物件が増えていない。設計見積りの依頼も減っているように感じる。
		衣料品販売店	インターネットでの利用者やレンタルの利用者の増加から、やや悪くなっていると判断する。
		小売業（酒類）	現状を改善できる期待が持てない。
		ラーメン店	ディナータイムでは、新規参入してきた回転寿司にファミリー層が流れている。これと同様に、コンビニもランチタイムの影響を受けている。
		ラーメン店	季節に関係なく、生ビールが昼間一杯位は出たが、それがなくなった。
		ゴルフ場	良くなる兆しが見えない。
		写真店	写真館に足を運び、記念写真撮影する方よりも、携帯等の中に撮影し保存する方が多くなってきている。今後、3か月先についても同様と思う。
	企業	水産業関係者	長いゴールデンウィークだったからか、その後、客数が目に見えて減少した。その余波によって、やや悪くなっていると判断する。
		運輸業	新聞、テレビの報道等で、海外の景気が悪くなっているといっているのが影響しているのかわかからないが、取引先の生産状況も若干少なくなっているようである。
		運輸付帯サービス業	業者からの値上げの話もあり、仕入れや売上げにも関係してくるのではないと思う。
雇用	求人広告	募集は継続していても求人募集数などが減少している。	
悪くなっている	家計	酒・各種商品小売業	酒類関係大型店が近くに出店予定。大小の影響は確実にある。
		タクシー運転手	物価上昇に消費税の10%をみんな考えているようだ。
	企業	製造業（電気機械器具）	液晶・半導体製造装置関連は、米中の貿易摩擦の影響で、更に悪化すると考える。
		製造業（食料品）	お客様が少なく、少量しか買わないと思う。消費税増税もあり、生活防衛している。
製造業（精密機器）	量産は減って、伸びる要因がなく、新しい開発も少ない。見通しもない状況である。		

## (2) 県央地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	百貨店	8月、9月に消費税増税に伴う駆け込み需要が発生するため、消費はプラスになる。10月以降の反動対策が必要。
	企業	農業関係者	お盆やお彼岸用の小菊の出荷や米の収穫も始まるため、景気は良くなると思う。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	消費税による、一時的な駆け込み需要が期待できる。
		百貨店	景気感は変わらないが、増税前の駆け込み需要を想定し、消費は伸びると判断。
		家電量販店	消費税の増税前で、9月までは良くなる考える。
		自動車販売店	消費税の駆け込みが少しはあるのではないかなと思う。
		レストラン	茨城国体関係での利用・問合せが多く、これと同様に、宿泊予約やレストラン予約などが入ってきており、今よりさらに良くなると感じる。
		割烹料理店	10月に消費税が10%に上がるので、9月末までは今のうちに買っておこうという人が増えると思う。
		タクシー会社	水戸駅・勝田駅を主として人の流れが活発に動いていることから、既存顧客に変動なく、または、利用頻度が上昇する事を前提に、良くなって行くものと判断する。
		観光名所	東京オリンピックも近くなり、外国人観光客も徐々に増えてきている。外国人旅行者は単価の高い商品を免税にて購入する傾向があるので、今後インバウンドが増えれば利益も大きくなるため、景気は良くなるのではないかな。
		レジャー施設	今後の原油市況次第だが、燃料費が引き続き値下げ傾向で推移していくものと考えた場合、現状と比べるとやや良くなると思う。
		住宅販売会社	3か月後はさすがに消費税増税論もハッキリして、増税後の対策等が明示されていると期待して、やや良くなっていると判断する。
企業	製造業（印刷・同関連業）	10月に消費税が10%になる予定なので、駆け込み需要があると思われる。（一時的なもの）	
	製造業（精密機械器具）	お取引先から委託を受けているOEM製品が、今後海外展開を戦略的に展開して行くことを開示されており、そのため人材の強化を実施し、また、工場増設などを着工する予定である。	
	不動産業	秋に向けて新築等の見込みがあるため、来客数、問合せは増えると予想する。	
雇用	人材派遣業	今後の売上も順調に推移していくと思われる。	
	求人広告	時給UPが定着してきている。	
変わらない	家計	商店街代表者	水戸市に所在がある事業所からの受注が少なく、個人の収入も増えてないことから、個人消費も良い品よりも単価の低い物を選ぶお客様の比率が多くなっている。
		スーパー	短期的には、変動しない。
		スーパー	お客様の節約ムードはしばらく続きそうで、低迷したままの状況は変わらないと思う。
		小売業	集客力アップのための環境が見込めない。（増便・イベント等）
		楽器販売	今の状況が急変するような印象はない。ただ、米中摩擦等、他の要因が加わるとその限りではないので、穏やかであってほしい。
		レストラン	変わる要素がない。
		レストラン	夏休み、お盆など人が動く（行動する）時期だが、景気動向を変化させる要因は感じられない。予約等も例年通りの動きはあるが、客単価等の大きな変化はない。
		都市型ホテル	特に変わる感じはしない。国体で一部は変わるかもしれないが。
		都市型ホテル	現在の先行予約状況も伸び悩み、今後大きくは伸びないと予測される。
		旅行代理店	弊社の仕事の依頼状況が、対前同時期比でも変化を感じられない。
		旅行会社	予約があまり入っていない。
		バス運転手	6月にボーナス支給となる企業が多いと思うが、消費税増税や社会保障費の負担も大きく、変わらないと思う。
		タクシー運転手	梅雨時のため、夜の繁華街へのお客様は減少すると思うが、昼間は雨が降るとお客様が増えるので、トータルするとプラスマイナスゼロで変わらない状況である。
		ドライブイン	偕楽園の有料化で、団体客が観梅以外、一年を通してどうなるのか今から不安である。消費税増税で財布のヒモが固くなる。
		ゴルフ場	米中对立等の影響による景気停滞局面の中、10月の消費税率引き上げに向けた駆け込み需要や、来年のオリンピックに向けた建設投資等が国内景気を下支えするとの見方も多く、今後3か月程度の状況は変わらないものと思われる。
		理・美容店	いつもと同じではないかなと思う。
建築設計事務所	横ばい傾向も長すぎる感がある。3か月先はゆっくりと動き始めるだろうという希望はあるが要因が見つからない。		

変わらない	企業	製造業(食料品)	食品に関しては、増税前駆け込み需要は影響なしと思われる。
		建設業	景気面は変化を望んでいない雰囲気である。
		運輸業(道路貨物運送業)	米中の貿易摩擦による生産、販売の減少や米国のイラン制裁に伴う原油価格の上昇が危惧される。
		金融業	今後3か月先の売上高の見通しは、ほぼ全業種において横ばい(見通しが無い)との話から、景気は現状と変化なく推移するものと思われる。
	雇用	公共職業安定所	景気先行指数である新規求人数は前年同月比で多少プラス傾向であったが、平成31年4月は前年同月比でマイナス14.6%と大幅に下がった。大型スーパーの出店は把握しているが、それに伴う求人がどれだけハローワークに出るかが不明である。また、100人規模で事業を縮小する事業所もあり、製菓等の製造業も事業縮小、廃止も見受けられる。
		学校就業関係者	6月の選考を前に、学生から内定の報告が何件かあった。この状況は昨年と比べて大きな変化はなく、売手市場で推移していると思われる。
		求人開拓員	米中貿易交渉をはじめとする、経済動向に影響を及ぼす国際情勢は依然不透明のままであるが、現在までの景気動向を見る限り、国内経済は予想以上に底堅いように見受けられる。
やや悪くなっている	家計	スーパー	このまま少しずつデフレに向かっていくと思う。
		スーパー	増税前で伸びも予想されるが、購買マインドは厳しいと考える。
		スーパー	市街地を迂回するように国道のバイパスが開通する予定なので、交通量の減少に伴う立ち寄りも減少すると思われる。
		農産物直売所	お買得感のある商品の動きは大きな流れで、すぐには変わるとは思えない。
		観光型ホテル	団体客の先行予約に加えて個人旅行についても8月の夏休みの予約以外は弱含みで推移している。
		タクシー会社	国体の需要増は見込めるものの、中東情勢の不安から原油高になることが想定されて、燃料費の高騰に伴う経費増大と流通の停滞が危惧される。
		レジャー施設	今後3か月先は、消費税率アップ等の影響から、やや悪くなっているように感じる。
企業	企業	製造業(窯業・土石製品)	消費税増税に向け個人消費が下がると思う。また、食品関係の値上がりも響いてくると思う。
		製造業(金属製品)	以前から問題であった、資材の獲得が困難を極めており、それによって先行きが全く読めない状況になっている。資材の入手については、徐々に改善される予定だったが、改善どころかますます悪化している。
		製造業(一般機械器具)	やや悪くなっているような気がするだけかもしれない。このまま元気にいきたい。
		サービス業(広告業)	消費税増税前の、特に高額商品の駆け込みが極端に少ない。相当な不景気がくることを恐れて、お金を使わない生活にどんどんシフトしている。
		工務店	公共工事の発注量が減少予想である。
		サービス業(コンサルタント業)	住宅件数が減っているように思える。
悪	家計	ペット美容室	消費税10%間近で、ペットに関する家計費の割合はかなり抑えられているであろうと思う。何故なら、人が生活していく上で、「ペット」の優先順位は底辺にあると思うから。
		企業	製造業(食料品)
	製造業(印刷・同関連業)		資材等値上げについて、顧客への金額に反映できていないのが現状であり、また、価格競争が止まらない。

(3) 鹿行地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	スーパー	10月の消費税増税前に若干の駆け込み需要が見込まれる。また、それを見据えて販売促進策を準備している。
やや良くなっている	家計	農産物直売所	今、現況お客様が「昨年より高いね」と仰るものの、商品を購入してくれている。
		洋食食堂	お昼を中心にお客様の来店が堅実である。男性、女性、若い方、年輩の方等、バランス良くご利用いただいている。
		都市型ホテル	合宿と国体があるから、やや良くなっていると判断する。
		ドライブイン	消費税増税前の駆け込み需要が見込める。
		住宅販売会社	消費税アップのあおりを受けて、一時的に消費が増える。
	雇用	求人開拓員	10月から開始される消費税増税の為の駆け込みの消費がやや見込めるのではないだろうか。
変わらない	家計	商店街代表者	景気が良くなっている声は聞くことができない。人手不足、原材料費の高騰、さらには大手企業との競争で更に厳しいと言う声を聞いた。また、消費税率のアップの影響がどうなるか不安だと聞いた。
		スーパー	客数や客単価、利益率に変動が見られない。
		コンビニエンスストア	特に良くなる要因がない。
		家電販売店	増税を控えている3か月前も状況は良くなっており、その点に関しては変わらないと判断している。
		農産物直売所	消費税増税が間近になって、駆け込みは増えると思うが、私どもの業種にはあまり影響がないと思う。どちらにしてもその後が心配。
		小売業（菓子類）	今月はやや悪くなったが、3か月先は変わらないと思う。それほど悪くなる要因はないと思われる。
		小売業（薬品店）	特別大きく景気の変化する要因がないと感じている。
		和食レストラン	消費税増税を前に、現時点では落ち着きを見せている。
		割烹料理店	10月の消費税増税を控えて、駆け込みで売れる物はあると思うが、飲食関係はそうもいかないのではないかと。
		日本料理店	お客様などからも、景気が良くなっている話を聞かない。
		観光型ホテル	先の予約状況から判断しても、変わらないと思う。
		運転代行	特別な動きがない限り変わらないと思う。
		タクシー運転手	景気が改善されたとしても、業界的に良くなるとは思えない。今回まで景気は全然改善されていない。ふとこころを絞って生活しているのに景気が向上しても以前の状態にはならないと思う。
		ゴルフ場	予約状況により判断。
		ゴルフ場	これからゴルフ場自体は閑散期にはなるが、特に景気がどうこうというようには見受けられない。
理・美容店	良くなるようなものはみえない。		
住宅販売会社	変化する要因がない。		

変 わ ら な い	企業	農業関係者	野菜の価格が若干上向き傾向になってきているので、今後、昨年度並みになると期待を込めている。
		製造業（化学工業）	当社業績の傾向から、変わらないと判断する。
		製造業（食料品）	消費税増税前なので変わらないと思う。
		製造業（食料品）	トランプ政権によるメキシコからの輸入品に対する関税引き上げが保留になった事や、FRBの利下げコメント等により米国の株式相場が上昇しており、今後日本株への影響がどうなるか等々、トランプ氏に振り回される状況では大きな変化はないと思われる。
		製造業（鉄鋼業）	現状が続くのではと感じている。
		建設業	まだまだ受注にはつながらない事が多く、厳しくなってくると思われる。
		建設業	リフォームの件数も多少あるが、大手業者の受注が多い。会社の知名度が大手は良い。価格（リフォーム）のほうは地元工務店の方が安い。営業を活発にしていれば受注も可能だと思う。
		運輸業（道路貨物運送業）	直近3か月の業績推移から、大きく変化する要素がなく横ばいが続くと感じる。
		金融業	今後3か月先の景気は、現在の顧客の状況から変わらないと考えるが、聞き取りでは悪くなると思っている顧客が増加している状況であり、長期的には下振れすると思う。
		保険業	個人住宅の長期火災保険契約が少し増えている。
火力発電所	例年並みの製造量であるから、変わらないと思う。		
雇用	民間職業紹介業	やはりマッチングが現状より増加する可能性は低い。	
	公共職業安定所	求職者数、求人数の動きに大きな変化は見込まれない。	
	学校就業関係者	学生の求人依頼が昨年度同水準で、とても良い。大企業においても人が足りていない状況。中小企業は、人集めが大変の様子。	
やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	商品単価が直近でとても上がっている。逆に考えると、商品単価を上げていかなければ、企業の成長が厳しいと感じる。
		小売業（食品）	やはり消費税が影響すると思う。
		小売業	増税や、その他の不安材料が多く考えられる。
		レジャー施設	新規の船舶免許の受講者数や、商品の問い合わせ等減少している。
		クリーニング店	10月からの消費税増税への不安、それに老後2000万円必要という発言にも年金では足りない。国民の不安が財布の引き締めにつながっている。
	企業	製造業（鉄鋼業）	製造業に消費税増税がどれだけ影響するかわからないが、悪くなる傾向にあると思う。
		製造業（電気機械器具）	国内景気、海外状況ともに不透明。
		製造業（金属製品）	海外諸国の自国経済保護主義の立場から、経済停滞は免れず、明るい状況にはない。
		運輸業（道路貨物運送業）	通商問題から、やや悪くなっていると思う。
		不動産業	消費税が10月より増税になると思うが、色々な面で物価が値上がりしているために悪くなるような気がする。特に建築関係、その他大きな買物をする物件。
サービス業	米中貿易摩擦や中東情勢の流動化等、以前から報道されている国際問題に大きな進展が見られないことと、国内においても有効な景気向上策が打ち出されていないこともあり、何かしらの事態変化がない限り、悪化する方向に動いていると考える。		
雇用	人材派遣業	米中の貿易抗争が軟着陸しそうにないため、日本経済への影響が懸念される。	
悪	家計	衣料品販売店	洋服、雑貨に関しては増税前に駆け込み需要はないと思う。
		タクシー会社	米中の貿易問題から、悪くなっていると思う。

(4) 県南地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	家電販売店	増税前の駆け込みが期待できる。
やや良くなっている	家計	スーパー	増税前の駆け込みでやや良くなっていると思う。
		家電販売店	増税などの影響もあり、駆け込み需要があると予想される。
		ホームセンター	お客様の声で、消費税増税前に買うという話題が増えている。
		和食食堂	増税前特需でやや良くなっていると思う。
		日本料理店	残暑の厳しい時だが、当店ほうなぎが中心にて、客足も増えると推測されるので、景気はやや良くなると思う。
		都市型ホテル	国体が開催され、単価を少し上げても集客はできるかと思う。(宿泊のみ)
		タクシー運転手	近くに大型倉庫が出来上がるので、人の動きに期待したい。
		タクシー運転手	お買物でご利用いただく際に、タクシーを待たせてお買物されるお客様が増えた。
		ゴルフ場	予約状況により、昨年よりやや上向いている。料金も若干の上昇がある。
		テーマパーク職員	8月、9月の予約が現時点で入ってきており、かつ今年度は企業様や団体など、個人以外の予約が多く見受けられる。昨年、一昨年あたりは企業のレクリエーション活動や研修などは当施設のようなレジャー施設を利用しないといった傾向が見られたが、今年度また利用するといったことで打ち合わせがある。また、消費税増税の前に利用しようというお客様も考え得るため、3か月後は当施設として考えた場合景気はやや良くなっているのではと考える。
企業	製造業(非鉄金属)	受注が回復し、更に増産計画が予定されている。	
	建設業	9月は盆明けで、忙しくなるのは毎年のことである。今年は6月に見積りした工事も昨年より多く、7月も続くと思う。よって、9月は昨年より受注量が増え、景気はやや良くなっていると思う。	
変わらない	家計	スーパー	客数の増減があまりない。
		スーパー	3か月後の9月は、消費税増税の前月となるので、多少駆け込み需要があると思われるが、基本的な景気動向に大きな変化はないように思う。
		コンビニエンスストア	固定客がしっかり定着している。
		農産物直売所	消費税10%について、政府の対応としては、国民を納得させる対策を実施するのだと考えるが、それは景気を良くすることには程遠い。店舗としては、自助努力するのみ。
		和食食堂	8~9月は観光シーズンなので普段よりは客数は多い。
		都市型ホテル	今年は3か月先ぐらいに茨城国体があり、予約状況では、宿泊や料飲施設での朝夕食が予定している。景気の話としては、10月からの増税が気になりだしたようであった。2%増でも見積もり提出の中では細かい指示もあったりしている。ともあれ、プラス面マイナス面を相殺して、あまり変わらないかと思込む。
		都市型ホテル	当ホテル側の立場からみると、変わらないと思われる。当ホテルの利益は順調に伸びるだろう。それは、7月、8月のイベント効果が期待できるからである。具体的に、7月中旬にはLPGAのサマンサタバサゴルフトーナメント、7月末にはうしくかっぱ祭り、8月にはROCK IN JAPAN FESTIVAL 2019(ひたちなか市)等々、こういったイベントがある時は確実に売上げを伸ばすことができる。また、夏休み等には各学校の部活動団体客を見込むことができる。しかし、本来からの当ホテルを常宿としている会社からの予約が少ない。これは、各会社の営業実績や景気が良くないからだと思われる。
		タクシー運転手	地方における景気上向きは見えない。
		タクシー運転手	特に変化がみられない。

変わらない	家計	サービスエリア	常磐自動車道においては、交通量や入館者数の変動が今後も生じるものと想定されるが、お客さま個人の消費傾向についてはそれほど変化はないと思われ、今後3か月間においても特に影響のある事象は見当たらないことから、景気動向についてはとりあえず変化なしと判断した。
		ゴルフ場	令和に入ってから多くの必需品が値上がりしている。ゴルフ場も先行の予約は上向いているが、猛暑と言われている今年の夏のマイナスを考えると変わらないと思われる。
		ボウリング場	増税の影響で娯楽への消費が減少しそうである。
		レジャー施設	現時点で判断できる材料がない。
		設計事務所	お客様の状況にも変化がない。
	企業	農業関係者	米の価格が3年連続上がったが、民間在庫の状況や天候から考えて、平年作でも価格が下がるのではないかと不安がある。現在の状況では判断できない。
		農業関係者	お客様全般における「買い控え傾向」は依然として続いている。
		製造業（食料品）	少なくとも消費税10%になるまでは、このままで推移すると思う。
		製造業（飲料）	良くも悪くもない。
		製造業（家具・装備品）	人は結構出てはきているが、売上げには結びついていない。
		製造業（その他）	先行きに関しても変わらず、変化の見込みは見られない。
		製造業（窯業・土石製品）	人手不足はしばらく続くものと思われる。
		製造業（一般機械器具）	変わるような材料がない。
		不動産業	過去の流れと違うことが多く、正直、予想ができない。
		運輸業（倉庫業）	新規案件の話題は見当たらず、例年通りの動きが予想される。
	金融業	消費税の引上げに不透明感があるものの、引上げを前提に各家計は消費を抑制している様子。各企業においては、様子見の感がある。	
		不動産業	TX沿線は好調に推移する一方、常磐線沿線は動きが鈍い感じがしており、大きな変化はないものと思料する。
雇用	人材派遣業	消費税増税に向け、9月までの出荷や納品増があり、現状維持の予想。10月からは微減予想。	
	求人広告	担当エリアの顧客と話す中で、景気の変化を特に感じない。	
	学校就業関係者	ここ最近において、大きな変化もないことから、変化はないと考えられる。	
やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	10月の消費増税を控えての買い控えの傾向がみられると考える。
		小売業	10月の消費増税（予定）前の駆け込み需要で、8月、9月は売上げが一時的に上がる事が予測される。増税後に消費が落ち込むことが予測されるので、トータルで見ると景気は落ち込むのではないかと思う。
		洋食食堂	季節要因（暑夏、夏休み、お盆、帰省）を除いては判断しづらいのがフレンチだが、法事等の家族の食事が多くなるので、売上げはなんとかある。それを除くと悪いのは当たり前。当店に当てはめればだが。
	企業	製造業（食料品）	商品購入品のサイズが小さくなっている。（1Lより500mLサイズを好む）サイズダウンと商品購入サイクルが長くなっている傾向にある。
		製造業（窯業・土石製品）	当社に直接的な関連はないが、年金問題、消費増税があり消費マインドは醸成しにくい環境にある。これに添えていくのは政治家の役割であると思うが、選挙のことばかりで国民目線になっていない。
		建設業	取引先などと景気について話をするが、皆、良くなるとは思っていないようである。
悪	家計	小売業（米穀）	令和元年産の米価も、値上がりが見込まれている。消費税増税も、軽減税率が適用されるので値上げ交渉が難しいと思われる。
		理・美容店	終身雇用は無理とか、預金を2000万円しろとかに加え、低金利、消費税アップ。悪くなる以外思いつかない。
		理・美容店	消費税増税での影響がありそうである。
	企業	建設業	消費税が10%になる。

(5) 県西地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	—	—	—
やや良くなっている	家計	家電販売店	10月に消費増税も控えているので、駆け込み需要に期待したいと考える。
		自動車販売店	10月の消費税アップにともなって、駆け込み需要があるかもしれないという期待感から、やや良くなっていると思う。
		旅行会社	「茨城県」としては、3か月後に国体があるので、サービス業界は多少良くなるのではないだろうか。
		ドライブイン	社内状況を踏まえ、働き方改革・人員確保に努めることによって収入に改善傾向がみられる。
		パチンコ店	農家の収穫時期で地域的な景気は良くなると思う。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	ある程度のロット生産案件が出ているため、稼働率も例年同月程度に戻ると思われる。
		製造業（窯業・土石製品）	消費税増税前の駆け込み需要から、やや良くなっていると思う。
		製造業（金属製品）	GW明けから受注高が増え、現状納期確保に奮闘している。
		建設業	残暑の厳しい時期ではあるが、工事の発注が増えてくる時期だと思うので、景気はやや良くなると思う。
変わらない	家計	スーパー	消費税の問題、天災、老後資金など話題が不安である。
		農産物直売所	茨城国体需要が若干望めると思うが、その他は現況とほぼ変わらないと思う。
		ホームセンター	消費増税が決まれば大幅に客数が伸び、特需が予想されるが、その他では伸びる要素は見当たらない。
		レストラン	新しいお店が開店したりしたが、特別変化はなかった。
		食堂	景気が良くなる要素が何もない。
		都市型ホテル	特別に変化する要因がない。
		タクシー運転手	今後の景気は企業次第。
		ドライブイン	10月の消費増税を控え、正直わかりません。
		ゴルフ場	予約状況にて、変わらないと判断する。
		ゴルフ場	入梅も近づいているため、心理的にも現状は変わらないと思う。客単価、ポータルサイトからの予約も鈍化している。
		理・美容店	人手不足で忙しいという話はよく聞く。しかし、収入が増えているかというところでもないようである。働き方改革も、いいのかもしれないがまだわからない。
		商店街代表者	来店客数の増加や単価の上昇が無いと予想される。
	住宅販売会社	県西地区に関しては、景気の動きが県央、県南より鈍感なため、増税目前か後に動くかと思われる。3か月先に関してはそれほど動きがないと判断する。	
	企業	農業関係者	天候次第である。
		製造業（印刷・同関連業）	仕事の量が少なくなっている。需要と供給のバランスが崩れている。
		製造業（化学工業）	市況の改善が見込まれない。
		製造業（電気機械器具）	長期的な変動予測は難しいが、この状況は当面継続すると思われる。
		建設業	特に変化を感じない。
		金融業	10月の消費税増税を見据え、一部の業種には駆け込み需要等も期待されるが、現状大幅な業況の変化は感じられず、今後も同程度の景気が見込まれるように感じている。また、米中貿易摩擦・ブレグジット等の外的要因への懸念もお客様から感じられる。
		サービス業（コンサルタント業）	春の昇給時期を過ぎて個人の消費動向を見ていると、消費が活発になっているようには見受けられない。今後もあまり大きな変化はないと思う。
雇用	人材派遣業	取引先会社から話がない。（忙しくなるので人材を募集する）	
	学校就業関係者	特段よくなる要素も、悪くなる要素も今の所見当たらない。	

やや悪くなっている	家計	商店街代表者	貿易戦争のニュースは我々のような消費者にも気になるところである。当然、財布の紐は固くなる。
		スーパー	商品の値上げが続いている影響が、消費にまで出てきているようである。
		衣料品販売店	消費税増税前になり、買い控えがあるような気がするので悪くなると思う。
		和食レストラン	消費税率引き上げも近くなりつつあるので、お客様の動きも鈍くなったり、節約傾向になり、客足が減少し売上げも減少すると思う。
		タクシー運転手	客の様子などを見ていると、景気が良くなるとは思わない。
		タクシー運転手	公共交通との問題から、やや悪くなっていると思う。
	企業	畜産業関係者	現状の推移を見て、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（窯業・土石製品）	景気の現状判断では、現在は忙しいと回答したが、先月5月の売上げは過去最低だったから「なんとしても受注したい」という思いが、得意先に伝わったのだろう。しかし、現在のこの忙しさが3か月持続するとは思わないので、「やや悪くなる」と回答する。
		製造業（金属製品）	長期的な仕事の話がない。
	雇用	求人開拓員	日米、米中の貿易問題の影響が当地域にも及んでくるのではないかと考える。
悪くなっている	家計	商店街代表者	令和改元ムードは大型連休で終わり、その後はみんな非常に厳しい。大型連休後に市のイベントがあったが、人出が少ないように感じた。
		コンビニエンスストア	全体としての客数が減少しており、今後も大きく改善していく見込みがない。
		製茶販売	良くなる見通しが何もないから、オリンピック景気というものには疑問がある。今の段階で誰がお金を出すというのか。テレビについても、映れば良いという感じだろう。生活するのがやっとなのである。
		ラーメン店	消費税が8%から10%になることを考えると、悪くなっていると思う。
		日本料理店	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この地域で良くなるという材料がない。</li> <li>・中心地の空洞化が進んでいる。</li> <li>・夜の酒類を提供する店舗は一段と厳しい。</li> </ul>
		旅行代理店	物価高が今後も続く。安定する要素がない。10月には消費税が10%になる。ますます大変な時代になる。
		クリーニング店	転職する人が多い。少しでも給料の多い所へと流れている。
	雇用	求人広告	お客様の予算の削減など、ネガティブな話が多くなっている。広告の発注も8月以降は一旦白紙になるなど、仕事も影響がこれから来るとされる。

Ⅲ 景気の判断コメント — 3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	商店街の小売店がどんどん閉店していく。古くから営業している店が辞め時を探しているように思う。
	商店街代表者	最近（ここ5年くらい）は倒産のニュースが無かったが、同業者の倒産や売り先である地方ゼネコンの倒産が相次いで発生した。余震に注意して商売をする時期になったようである。
	スーパー	全体的な景気はそれほど良いとは思えないが、コンビニ問題同様、小売業での人手不足は否めない。一方で、お客様は従来のサービスを求めており、ここにギャップが生じる。対応したくても、対応できない現実がある。
	スーパー	世の中全体が高齢化しているので、少量の単位の商品が売れていると思う。自分の住んでいるひたちなか市内で、新築の一戸建てが増築されている。
	酒・各種商品小売業	この地区が干し芋の産地ということで他業種からも干し芋に参入する事業者が結構いる。
	コンビニエンスストア	タバコについては、値上げ後も予測ほど下がっていないので、生活が厳しく買い控えているといった方は少ないと思うが、価値のある物についてしかお金を出さないといった傾向はますます強くなっていくように思う。
	小売業（弁当・惣菜店）	パンダの誘致はよく話題になる。また、「ある町の高い煙突」の試写会から公開と話題になっており、地元の話に対する興味関心の高さがうかがえる。
	小売業（酒類）	個人経営の物販業者の閉店が止まらない。
	小売業（水産物）	夕方以降の客数の減少。最近、店を閉店する飲食店（居酒屋含む）が増えている。
	レストラン	PM9:00頃から散歩をしている途中、客の流れがとても変わった。とても心配している。また、高齢の経営者がやめる方向にいつているので、景気に関連するのだろうか。
	ラーメン店	手軽さが一番なのだろうか。安い、早い、そこそこ旨い。これからは決済方法に対応していかないと、どんどんお客様はつかめなくなりそうな感じがする。
	スナック	エコカーに乗る人が増えたと思う。
	ラーメン店	夜の来客数は極端に悪くなってきている。
	食堂	スーパーの安売りを買って、皆様に恩返しできるように頑張ります。
	観光型ホテル	QRコード決済の業者が乱立状態で、レジの対応が追い付かない。業界としての統一の規格を策定しなければ、一部の利用者以外は利用しなくなるのではないかと。
	タクシー運転手	今後、国体が開催される。ぜひとも景気に好影響が出るように期待している。
	タクシー運転手	日立市の人口減少化で労働者の通勤風景がだいぶ寂しくなった。高齢者のタクシー利用が少し増加した感じがする。
	ドライブイン	景気とはまた別だが、高齢ドライバーさんはお得意様。県北は高齢の方が免許を返納できる環境ではまだないのだろうか。「来年はもう来れないなあ」という都市部のお客様も多い。
	レジャー施設	茨城県の記者会見により、パンダ誘致に県も手をあげたことが報道された。気が早い方はいつ頃来るのかと尋ねられる方も結構多くいる。ハードルは大変高いと思うが、実現すれば県北地区の景気は相当良くなると思うので、県知事をはじめ、関係者のご尽力をお願いします。
	ゴルフ場	茨城国体まであと100日になり、スポーツムードは高まりつつある。
写真店	ドラッグ関係の店が多くなっている。	
住宅販売会社	消費税増税の駆け込みの影響もない。	
企業	林業関係者	運送部門は活発に動いているように感じる。
	製造業（電気機械器具）	会社内は景気が良いが、消費が伸びていない。一般的には、景気は悪くないが将来的に不安があるように思う。
	製造業（電気機械器具）	景気が悪くなる兆しが出ているが、人材の確保はとても困難な状況である。新卒、中途どちらにも言えることであるが、特に新卒は大学と工業高校が特に厳しい。
	製造業（輸送用機械器具）	米中の経済摩擦は一時着きを見せたが、再び再燃傾向にあり輸出生産に大きな変化を及ぼすのか注視すべき内容である。また、消費税増税が実施された場合、それに伴う景気への影響がどのように出てくるのか等注視したい。
	製造業（精密機器）	拡販で新規メーカーの引き合いが増えている。下期に期待してやっている。まわりでは悪い話しかない。この状況が続くような感じがする。
	金融業	製造業においては、明るい兆しが出てきつつあるが、飲食業をはじめ地元商店街は閑散としている状況で軒並み苦戦を強いられている。
	不動産業	事業主（個人・法人）が経営難や高齢化、跡継ぎ不在等によって事業を終了し、土地や建物を売却または賃貸したいとの問い合わせが増えてきているが、相手（買主、借主）がなかなか見つからない。一方で大企業が移転先や大型倉庫などを探しているとの情報も多いが、適地が見つからない。
	情報通信業（情報サービス業）	人手不足で新卒採用・中途採用が厳しくなっている。定年後の再雇用者の活躍の場が増えている。
	運輸附帯サービス業	身の回りの色々な物の値上げで、少しでも消費を抑えたい。
	雇用	求人広告
公共職業安定所		人出不足関連職種は、外国人の受け入れを行い対応している。
求人開拓員		居住地周辺（半径500m以内）にて山林伐採し宅地造成、工場跡地に宅地造成と、住宅関連は景気が良いように感じた。

## (2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	茨城国体開催にともなう需要がある。
	商店街代表者	3月から5月まで、令和の特需があり官公庁から毎日のようにとりあえずの参考見積りがあり、その次競争見積りもあり、結果を待つ受注するという手順になり、競争見積りの価格が31年前の平成の時より厳しい価格競争だった。2月頃、県から「日付印（データ印）の需要があると思われるので」と言われ、事前に器具を大量確保していたので、当店は受注に滞りなく対応できた。全国的に一斉需要（令和）なため、データ印とゴム印の需要が多く、器具、材料が不足気味で粗悪な同等品で対応せざるを得ない業者がいた。（県からの情報は参考になった。）
	百貨店	富裕層の購売は堅調であると思われるものの、中間層は配送料金の値上げ等も含めた想定していなかった出費（食品の値上げ、郵便料金等いろいろあるが）が重なり、厳しく購売を考えていると見られる。
	スーパー	働き方改革の影響で、大手企業の残業代の減少で少しずつ賃金の低下がおこり、ひいては客の購買意欲も減少していくと思う。
	スーパー	株価の下落、消費税増税など、良い予見が見当たらない。
	スーパー	健康情報番組が増えたことによる報道需要が、瞬間的に上がる傾向が見られる。また、SNSなどでの情報も同様に感じられる。
	スーパー	土日は年配の方や主婦の方が、家族の都合（旦那さんが休み、孫がくる）で出かけづらいと聞きましたので、平日に歌謡ショーを開催して多くの集客を図っている。
	家電量販店	5月下旬の猛暑でエアコンが前年の2.8倍、売上げが前年月ほどあった。
	小売業	外国人の大量購入が以前に比べて減少している。
	自動車販売店	まだ消費税の駆け込みがほとんどない。
	農産物直売所	お買得な商品が動いているが、こだわりで高額な商品も動いている。両極端な感がする。
	レストラン	いばらき国体を10月に控え、少し期待する声もある。
	観光型ホテル	個人旅行については連休や夏休みなどイベント集中型になりつつある。インバウンドは団体旅行からFITに移りつつあるように思える。
	旅行会社	給料が上がったり、ボーナスが出れば景気が良いと感じるだろう。
	バス運転手	茨城国体や東京オリンピックの開催を前に、スポーツをはじめとするイベントが多い。
	タクシー運転手	繁華街（水戸市大工町周辺）では、客引き行為が以前より多くなった気がする。それを嫌がり、客が歩かなくなった気がする。繁華街へ足を運ばなくなる一つの要因に思える。
	タクシー会社	・水戸駅・勝田駅等をご利用のお客様が、県外からのビジネスマンが増加している。 ・外国人（特に、韓国・中国・台湾）の利用が増加傾向にある。 ・県外からの観光タクシーの予約利用が増加傾向にある。 ・県内既存顧客の高齢者利用が増加している。（運転免許返納の方々の利用）
ゴルフ場	アルバイトの募集開始から応募までの間が短くなった（レスポンスが良くなった）感じがする。	
ペット美容室	老後の蓄え2000万円問題について考えさせられる。夫婦が新生児をもうけたその日から、その赤ちゃんは貯えに励まなくてはならない、と言うことであろう。それを考えると、かなり博打的な投資よりも動・不動産を財産として運用する、的な事を話している方がいるが、それはそれだけの資金がある方である。	
企業	製造業（食料品）	働き方改革への対応を理由にした効率化（得意先に対するサービス低下）を実施する企業が出てきているように感じる。
	製造業（印刷・同関連業）	令和となったが大きな動きはない。
	製造業（印刷・同関連業）	時期的なものはあるが、お客様との話においても、景気が良くなっている話題が出てこない。
	製造業（一般機械器具）	同業者も同じようなことを言っている。10連休、働き方改革、トランプ大統領と心配なことばかり。
	製造業（精密機械器具）	IT人材を強化しようと募集を掛けたが、なかなか採用出来なかった。ただ、最終的に、地元の方で優秀な方を運良く採用出来たが、諦めずに継続が必要と実感した。IT人材は景気の動きに関係なく、今後も採用困難が続くようである。
	建設業	社会保障に不安を感じ、若年層まで萎縮していくのではという雰囲気を感じる。高齢者は終活という位置に置かれ景気動向に現れてこない。
	運輸業（道路貨物運送業）	労働力不足により人員の確保が難しくなっている。
	金融業	水戸市内においては、大型商業施設に消費者が流れ、依然として地元商店街は苦戦を強いられている状況であることから、中心部への集客向上を図るべく街中を中心とした各種イベント等を行い地域活性化を行っている。
	不動産業	吉沢町のショッピングモール完成に向けて、活気が出ることを期待しているオーナー様が多い。不動産の需要が増えることを期待している。
	雇用	公共職業安定所
求人開拓員		ある半導体メーカーの事業所再編、早期退職の影響が地域全体の景気動向に波及するか否か（影響は限定的だと考えるが）注視していく必要があると思われる。

## (3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	鹿島神宮の参拝客が増えている。新年号の制定、そして近年、メディアやTV等で取り上げられるケースが増えたことが考えられる。茨城国体、2020オリンピックと合わせて、景気向上に波及することを期待する。
	スーパー	競合店の出店状況が活発になっている。特に県外資本のドラッグストアが増加し、低価格競争予見が増加している。
	衣料品販売店	私共のような個人経営の小売店は、消費税増税が不安でしかない。まわりの店主も同じ事を言っている。
	家電販売店	当業種だけではなく、増税に対する反応は早いと思われる。購買意欲が高まっているように見受けられる。
	小売業（薬品店）	インバウンド（個人客の免税）の来店があるが、月数件ほど。今後もあまり期待できない。また、買上点数が伸びないので、必要な品以外への財布の紐が固いという印象。
	小売業（食品）	テレビなどの報道で景気が良くなっていると言われているが、一般庶民から見るとそのような感じは全くしないようだ。
	小売業	当社は小売販売店だが、各卸問屋様の仕入運賃や、卸価格が上がっている。そのため、利益を確保することが、ますます難しくなりつつある。
	和食レストラン	引き続き、人手不足について感じることもある。
	洋食食堂	業種、業態にかかわらず、伸びる店と衰退する店がはっきりと分かれてきていると思う。高く広くアンテナをたてるべきだが、情報過多になることのない自分でいたいと思う。
	海鮮料理店	いつも同じだが、そんな簡単に景気はよくなるらない。
	運転代行	今のところ、特別な動きは見られない。
	タクシー運転手	高齢者が多い職場となっている現状。早く対策をとらないと業界の存続ができなくなる。若い人でも働ける業界にしなければ景気は良くならない。根本的に改善する必要がある。
	企業	ドライブイン
ゴルフ場		シニア層の動きは活発であるが、若年層のゴルフは減少傾向である。
理・美容店		お年寄りもホームに行き、若い方は地元を離れ暮らしているので、小さい子供が見られなくなってきた。
クリーニング店		地球温暖化のためか、周りの野菜農家の収穫時期がずれたり、量が多かったり少なかったりで、値段が安い。
農業関係者		消費者の財布の紐も厳しいのか、買い物物の平均単価が昨年度より若干減少している。米国などの影響で消費者の方も不安があるのかもしれない。
製造業（食料品）		鯖・鰯缶詰ブームが継続している中で、5月以降は様相が変化してきている。日本国内産鯖原料使用を謳った東南アジア産（中国・韓国・タイ・ベトナム・マレーシア・フィリピン・インドネシア等）の輸入鯖缶が大量に流入して、国内産鯖缶との競合が激化している。当面は品質、価格面も含めて二極化の中で消費者の選択に委ねる形となる。
製造業（電気機械器具）		一時期の人手不足はあまり聞かれなくなった。やや生産が製造業を中心に落ち着いてきている気がする。
製造業（金属製品）		半導体ICパーツ、自動車部品など、輸出に関する製品が良くない。国内メーカー（近隣企業）も秋口になると受注が減少するかもしれない。
建設業		建設業界の労働力不足の解消にと、外国人実習生の受け入れなどがいろいろ言われているが、やはり日本人労働力の確保も大事な事だと感じる。
金融業		現在、ホテル2棟が建築中であり、宿泊の潜在的な需要が旺盛であることが伺える。完成して宿泊客が増加すれば、飲食業など関連業種の売上増加が見込まれる。
保険業		芋とレンコンの植え付けが増えている。
不動産業	ホテル（190室位）が1軒できるようで、現在建築中である。その他1軒（200室位）が工事中である。	
雇用	民間職業紹介業	外国人の雇用を積極的に展開しなければならない方向が見られる。
	学校就業関係者	近くのコンビニの店員は、年配の方が増えている。（50歳以上）
	求人開拓員	最近身の回りで感じることは生活保護者の増加である。働かず安易に生活保護の申請をして、生産を生む行動をとらない人々が多くなっているような気がする。

## (4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	スーパー	外国の労働者（客数）が増えている。
	農産物直売所	遠方からのお客様が減少している。国道や国道の看板で車の通り道が変わり、店舗の売上げに関係してくる。
	小売業	つくばエリアの人口が増えている事もあり、ご来館されるお客様が、お子様連れのファミリーが多くなってきている。
	小売業（生花店）	今年の春ごろから、解体業者の動きが活発化している。消費税増税前の駆け込み需要と考えられる。
	小売業（米穀）	キャッシュレスの動きが加速しているように感じる。 電気代、電話代が安くなると謳う電話が毎日掛かって来る。
	洋食食堂	私が長く行っている美容室では、カットで12,000円（税別）。ここにきて30名位、お客様が減ってしまったとオーナーから伺った。高齢による自然減少と新規の来店客数が少ない。広告を出しても反応が全くないとのことであった。
	都市型ホテル	記載時には、丁度つくばでの「G20茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合」が開催される。景気に関連することは、前回のG7の時同様で、終了してしまうとあっという間に引けてしまう結果が見込まれ、景気には影響があまり無いと思われる。
	都市型ホテル	自宅の近くにスーパーができ、既存のスーパーに入っていた客が新しくできたスーパーへ流れていると思う。（駐車場に空きが目立つ） 私もそうだが、少しでも安いスーパーへ流れてしまう傾向があり、景気が少しでも上向いているとは思えない。
	都市型ホテル	①スーパーに買物に行くことやたら見切り品、半額商品が目立つ。買い控えや正価のままでは高いと消費者は思っているからだろう。 ②住民税、健康保険料がやたら高いと思う。車検の時の税金や5月の自動車税。とにかく税金を払うのが精一杯で、生活費に困窮し、消費力が低下している状況である。市民の税金が高いままでは絶対に景気は良くなるまいと断言できる。
	タクシー運転手	コンビニで昼食を買うサラリーマンを見ていると、明らかに500円を超えるセレクトをしている方が多く見られる。
	サービスエリア	パート・アルバイトの募集をするも、応募が少なく困っている。
	ゴルフ場	最近、身のまわりの品が値上がりが続いている。消費税率の引き上げも迫っており、景気にも悪い影響が出ていると思われる。
	企業	テーマパーク職員
理・美容店		お客様との会話に会社の愚痴などが多くなっている気がする。投資話や副業の話などの会話ネタなども多い。
農業関係者		団体旅行を企画するうえで、バス代が高額なため遠出を渋る企画となってしまっている。よって、企画する回数も減っている。
製造業（家具・装備品）		空き店舗が増えてきた。新しい商売をする方もいない。NPO、観光協会等、努力されているが、結果が良い方に向いていかない。個人店が元気がない。
企業	製造業（その他）	米中の問題により、身の回りにおいて影響を受けていることを耳にすることが多くなった。
	製造業（非鉄金属）	社員の転職、採用が多い。
	建設業	木材及び住宅資材関係の会社が、仕事がうすいとよく聞く。
	建設業	知り合いの独居老人（子供なし）は終活をしている。土地も多く持っているのだが、市場価格の半値でもいいから売ってしまいたいと言っている。そんな老人が身の回りに増えてきているような気がする。
	運輸業（倉庫業）	働き方改革に向けて、運送面に変化が見られる。ドライバーの時間外削減を視野に入れ、高速道路の有効活用を考えている。
	金融業	茨城県が事業主体となり、土浦市及びJR東日本と連携して運営する自転車拠点『りんりんスクエア土浦』のオープンにより、週末は、りんりんロード（旧筑波鉄道線路跡）や、霞ヶ浦サイクリングロードを走るサイクリストが増加している。しかし、旧市内を訪れ、市内商店や飲食店を利用するサイクリストは少なく、今後は如何に旧市内までサイクリストを呼び込み、消費活動に繋げるかが課題である。
雇用	人材派遣業	取引先生産量が減り、残業なども少なくなっている。

## (5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	年金問題が話題になり、ますます消費減が拡大している。高齢地域だけにその様子が顕著に肌で感じる。
	商店街代表者	どこの病院も人がいっぱい。混んでいるのは病院だけ。国は医療の補填がうなぎのぼりでどうなるのか。
	スーパー	曜日の企画の反応差が大きい。
	スーパー	5月の10連休後のお客様の買上単価が特に悪い。
	衣料品販売店	今は特にないが、増税前になってポイント還元等の話題が出てくると思われる。
	家電販売店	消費増税が近づくとつれ、駆け込み需要に期待を持っている部分もあるが、キャッシュレス決済時にポイントを還元するなどの詳細が明らかになり、前回の増税ほどの期待は得られないと考える。
	メガネ・時計販売店	5月はゴールデンウィーク中も、終わった後も、来店客数が激減で、売上げが上がらなかったが、6月に入り、多少平常の客数に戻った感じがする。
	ホームセンター	前回の消費増税前は特需が目立ったが、今回はまだそれほど変化はない。
	製茶販売	お年寄りを持っていると思っていたが、お年寄りも財布の紐が固くなった。
	ラーメン店	パートを募集しても時給を上げないと来てもらえない。人手不足である。
	日本料理店	先行き不透明。
	旅行会社	高級志向が減ってきている。
	旅行代理店	お客様の財布が閉じたままと感じる。全く集客がない。大手旅行会社より安く設定してもためである。サービスを良くして喜んでもらうよう努力したり、クイズを出して景品を出したり、車内でカラオケを楽しんだり（グループの場合）、サービスに力を入れていく。
	タクシー運転手	大きな飲食店が何店舗か店じまいをしている。
	ドライブイン	相変わらずの求人難。朝、晩の人員が確保できない。
	ゴルフ場	通年に比べ、平日の交通量は増えているように感じる。反面、土日祝の交通量が減り、一般的に仕事の稼働が高い印象。
	パチンコ店	同業の店舗数が全国的に減っている。
商店街代表者	消費税増税があり、給与等の上昇がみられないため、消費の増大は見込まれない状態である。	
企業	製造業（窯業・土石製品）	梱包資材業者や運送業者等から伺ったところでは、お中元シーズン頃まで落ち着いてしまう状況が続くそうとの事であった。
	製造業（窯業・土石製品）	一時の激しい安売競争が、少し下火になったと感じている。
	製造業（窯業・土石製品）	当社の業態は石材業の中の石材製品加工卸業だが、石材を生業とする中で、一番利益の少ない業態であり、また、中味も熟練工を必要とする商売である。将来、必要最低限の業者しか生き残れないだろう。日本という国は「物作り」で現在の豊かさ、そして世界で「確固たる地位」を築いたのだから、「物作り立国」が日本の生き残る最善の道ではないかと、国の将来を私は憂いている。
	製造業（金属製品）	GW明けから受注高が増え、現状納期確保に奮闘している。これは、10月からの消費税率アップが原因の一つではないだろうか。下期に不安も感じられる。
	建設業	建築関係で暑さが厳しくなる時期で、特定の工事に関して、仕事が間に合わない程忙しい業種もあるようだ。
	不動産業	駅近くの中古マンションの価格が上昇している。
雇用	求人広告	近所の飲食店が以前はいつも車が一杯だったが、最近では空席が目立つ様になった。色々な物の値上げも実生活に影響が出てきた。